

第3章 大都市住民に向けたニーズ調査とその結果

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

首都圏と関西圏の住民に対して、ボランティア経験や国内での長期滞在の経験などを調査し、どのような人々がボランティアホリデーに対して関心があり、参加意向が高いのかを調べ、ボランティアホリデーのプログラム作成に役立てることを目的としている。

(2) 調査項目

調査項目	設問項目
ボランティア活動経験や意向について	<ul style="list-style-type: none">・ ボランティア活動経験の有無 (問 1)・ 経験があるボランティア内容 (問 2)・ ボランティア経験がない理由 (問 3)・ 今後のボランティアの意向 (問 4)
国内旅行について	<ul style="list-style-type: none">・ 過去 3 年間の国内旅行の有無 (問 5)・ 最も長かった旅行日数 (問 6)・ 旅行の過ごし方 (問 7)・ 旅行の情報源 (問 8)・ 国内旅行に行かなかった理由 (問 9)・ 今後の国内旅行の意向 (問 10)・ 旅行回数と日数についての意向 (問 11)・ 旅行費用についての意向 (問 12)
ボランティアホリデーの意向について	<ul style="list-style-type: none">・ ボランティアホリデー体験の希望 (問 13)・ ボランティアホリデーで関心を持った点 (問 14)・ 体験を希望しない・体験するかどうかどちらともいえない理由 (問 25)
ボランティアホリデーのプログラム内容について	<ul style="list-style-type: none">・ 滞在日数 (問 15)・ 同伴者 (問 16)・ 滞在地域 (問 17)・ 滞在地域に希望するもの (問 18)・ 1 日に負担できる費用 (問 19)・ 往復の交通費 (問 20)・ 宿泊施設 (問 21)・ 欠かせない宿泊施設の設備 (問 22)・ 希望するボランティア内容 (問 23)・ 提供可能なボランティア内容 (問 24)・ ボランティアホリデーに期待することや要望 (問 26)

地方圏への定住について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方圏への定住希望 (問 27) ・ 定住を開始する予定の時期 (問 28) ・ 定住を考える理由 (問 29) ・ 定住への期待・要望 (問 30)
-------------	--

(3) 調査対象と標本の抽出方法

①調査地域：

首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）

関西圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県）

②調査対象：上記地域に住む 20～79 歳の男女

③標本数：1,800 サンプル

④標本抽出方法：割当抽出法

国勢調査から、調査地域（8 都府県）の 15 万人以上の都市の人口を性年齢別に比例配分して調査会社の一般消費者モニターから 1800 人分抽出。

(4) 調査方法

郵送配布・郵送回収法

(5) 調査実施期間

調査時期：2004 年 10 月 27 日～11 月 10 日

(6) 回答者数と回収率

回答者数：1,021 サンプル（回収率：56.7%）

回答者の年齢別分布を見ると、50 代～70 代の回収数が多くなっているが、これは、この年代が「ボランティアホリデー」への参加意向が高いという仮説を立て、この年代の回答を多くとるために、あらかじめサンプル数を多く割り付けたためである。

図表 3-1 年齢別回答者数と回収率

【首都圏】

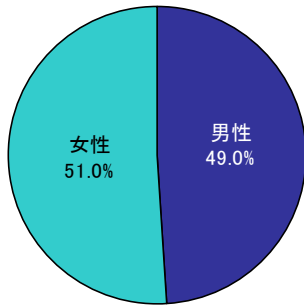
首都圏	標本数	回収数	回収率
男性計	480	258	53.8%
男性20代	105	39	37.1%
男性30代	55	35	63.6%
男性40代	50	31	62.0%
男性50代	85	42	49.4%
男性60代	114	73	64.0%
男性70代	71	38	53.5%
女性計	420	276	65.7%
女性20代	90	45	50.0%
女性30代	40	34	85.0%
女性40代	40	28	70.0%
女性50代	97	71	73.2%
女性60代	108	67	62.0%
女性70代	45	31	68.9%

【関西圏】

関西圏	標本数	回収数	回収率
男性計	480	242	50.4%
男性20代	105	36	34.3%
男性30代	55	23	41.8%
男性40代	50	25	50.0%
男性50代	86	39	45.3%
男性60代	114	77	67.5%
男性70代	70	42	60.0%
女性計	420	245	58.3%
女性20代	90	51	56.7%
女性30代	40	30	75.0%
女性40代	40	23	57.5%
女性50代	89	61	68.5%
女性60代	89	55	61.8%
女性70代	72	25	34.7%

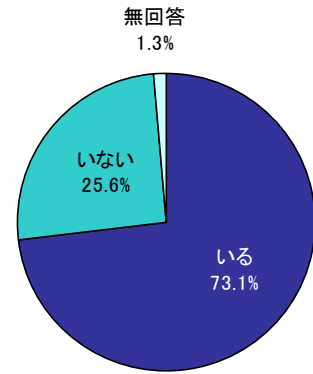
(7) 標本の構成

図表 3-2 性別



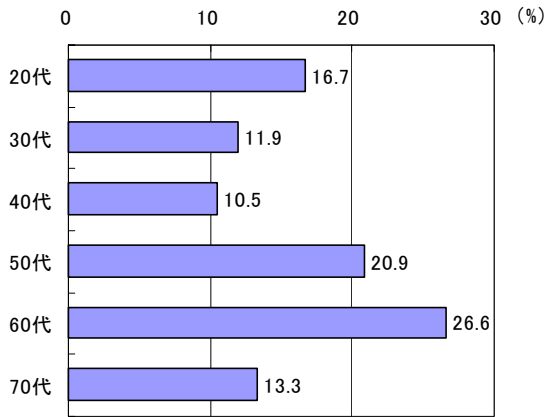
n=1021

図表 3-3 配偶者の有無



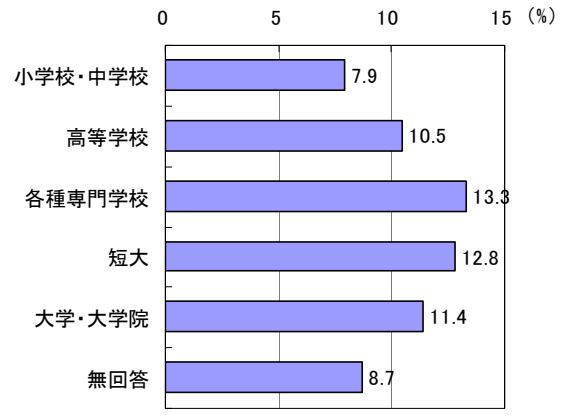
n=1021

図表 3-4 年齢



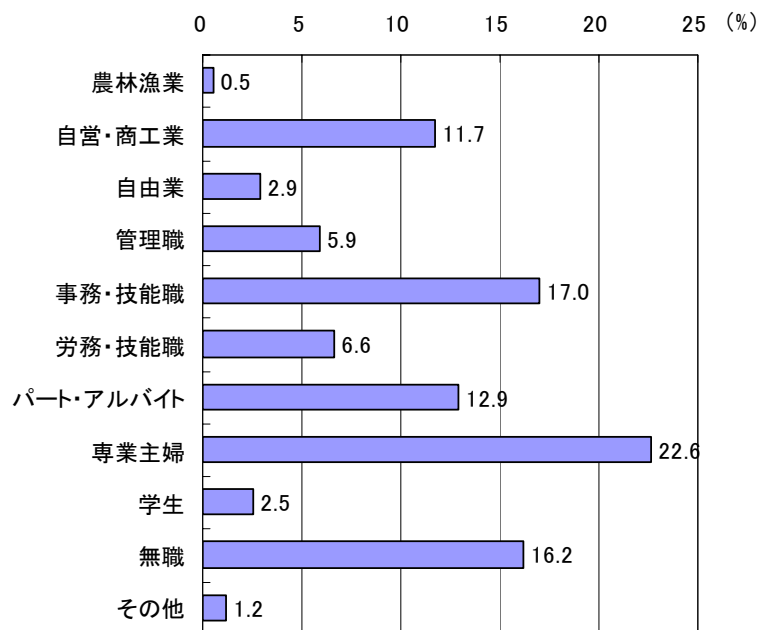
n=1021

図表 3-5 最終学歴



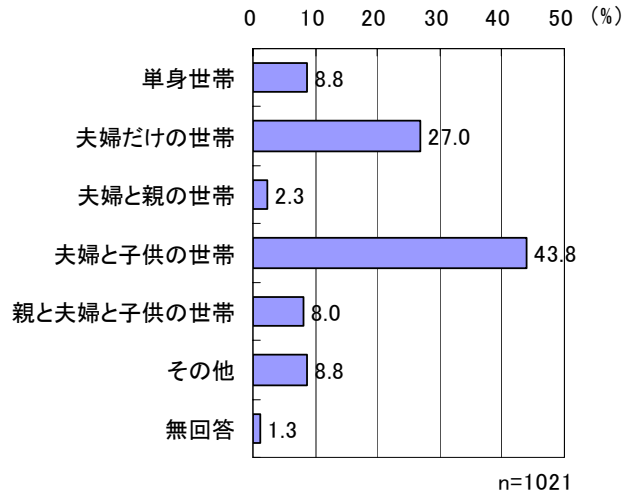
n=1021

図表 3-6 職業

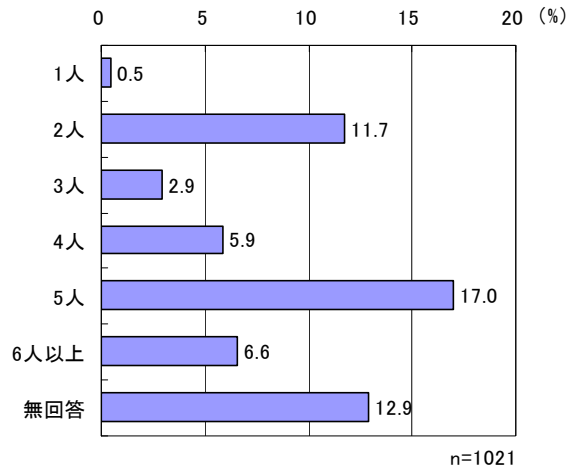


n=1021

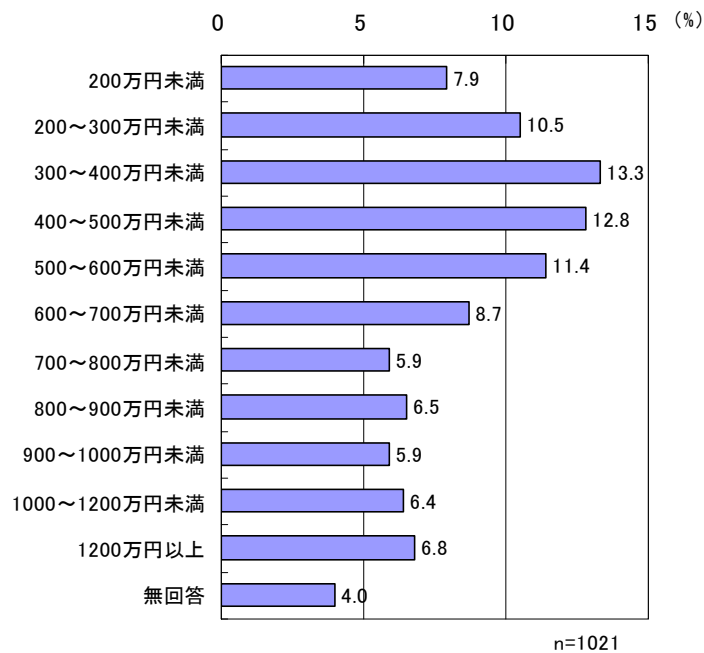
図表 3-7 家族形態



図表 3-8 家族の人数



図表 3-9 世帯年収



2. 調査結果

(1) ボランティア活動について

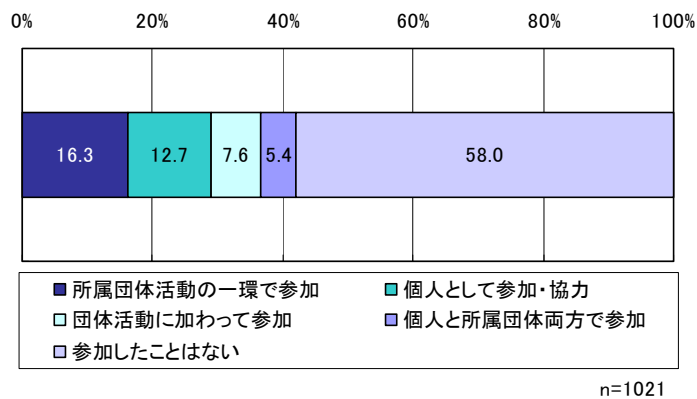
①ボランティアなどの社会貢献活動の経験について（問1）

ボランティアなどの社会貢献活動の経験については、未経験者は 58.0%であり、なんらかのボランティア活動に参加したことがある人は 42.0%であった。男女別にみると、女性でボランティア活動に参加したことがある人が約半数（48%）であるのに対して、男性ではボランティアに参加したことがある人が 35.8%と 3分の1程度しかいない。

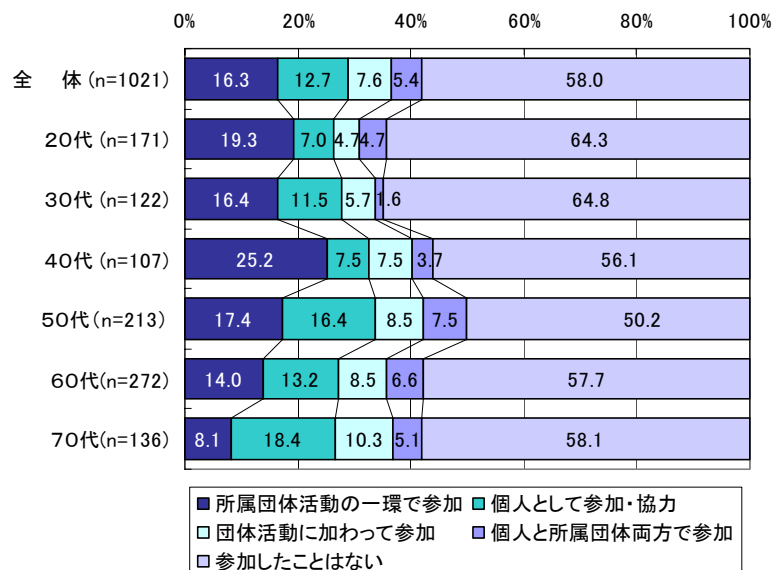
また、年代別にみると、最もボランティア活動参加経験が多いのは 50代（49.8%が経験あり）であり、参加経験が少ないのは 20代（64.3%が経験なし）と 30代（64.8%が経験なし）である。

さらに、男女別・年代別にみると、40代女性が最も参加経験割合が高く（54.9%が経験あり）、参加経験が少ないのは 20代男性（73.3%が経験なし）であった（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-40）。ボランティア経験者あり（経験者）の中で、最も高かったのが「所属団体活動の一環で参加」で 38.7%であり、次が「個人として参加・協力」で 30.3%であった。

図表 3-10 過去のボランティア活動経験



図表 3-11 年代別 過去のボランティア活動経験



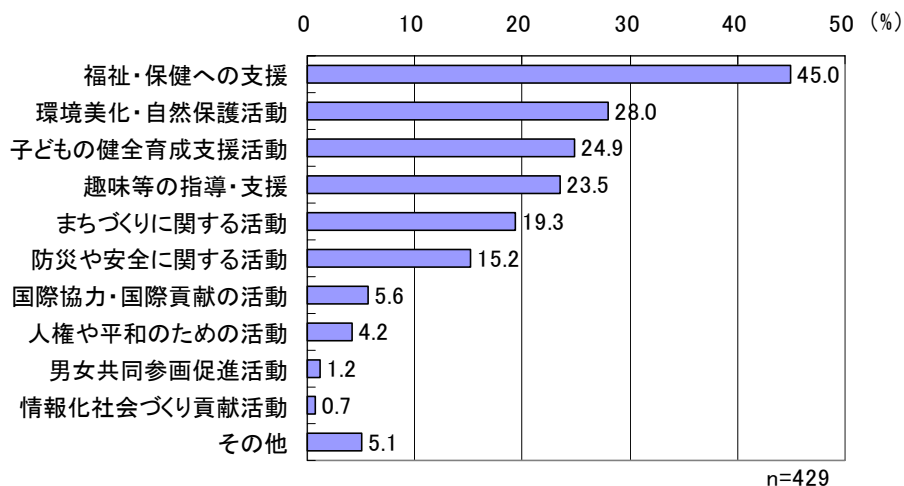
②参加したボランティア活動の種類（問2）

ボランティア活動に参加したことのある人に、これまでに参加したことのあるボランティア活動の内容について尋ねたところ、どの年代でも共通して最も割合が高かったのは「福祉・保健への支援」（45.0%）であり、特に70代女性（63.3%）、60代女性（62.3%）、20代女性（58.5%）、30代女性（54.2%）で半数を超えている。全体で2番目に多いのは「環境美化・自然保護活動」（28%）であり、3番目は「子供の健全育成支援活動」（24.9%）、以下「趣味等の指導・支援」（23.5%）、「まちづくりに関する活動」（19.3%）となっている

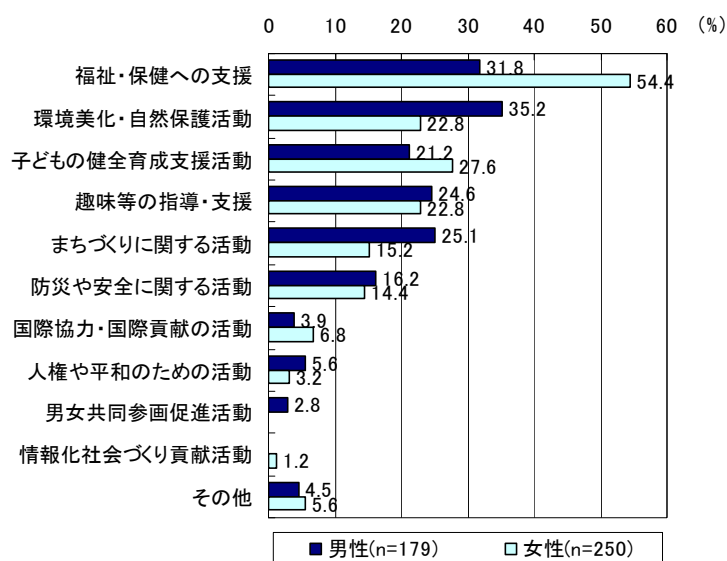
男女別にみると、女性では「福祉・保健への支援」（54.4%）が最も多いが、男性では「環境美化・自然保護活動」（35.2%）が最も多い。また、「まちづくりに関する活動」は、男性が25.1%であるのに対して女性の場合には15.2%しかない。

そのほか、70代男性では「まちづくりに関する活動」（37.0%）や「環境美化・自然保護」（44.4%）、「防災や安全に関する活動」（40.7%）への参加が多くなっている。また、「子供の健全育成支援活動」に参加したことのある人が多いのは、30代女性（41.7%）、40代女性（35.7%）、40代男性（31.6%）である。

図表3-12 参加したボランティア活動の種類



図表3-13 性別 参加したボランティア活動の種類



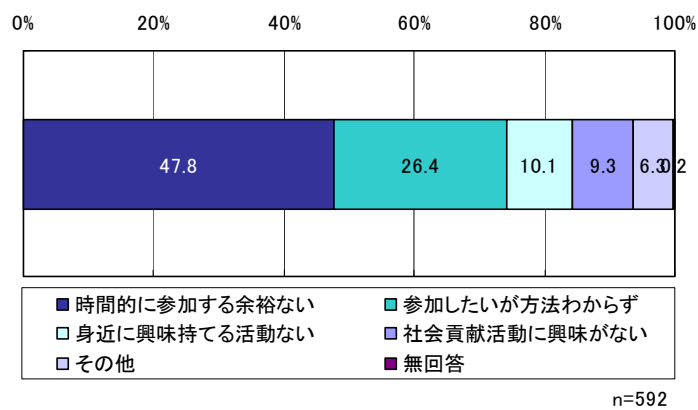
③ボランティア活動に参加しない理由（問3）

ボランティア活動に参加したことのない人に参加しない理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「時間的に参加する余裕がない」（47.8%）であり、次が「参加したいが方法がわからない」（26.4%）であった。

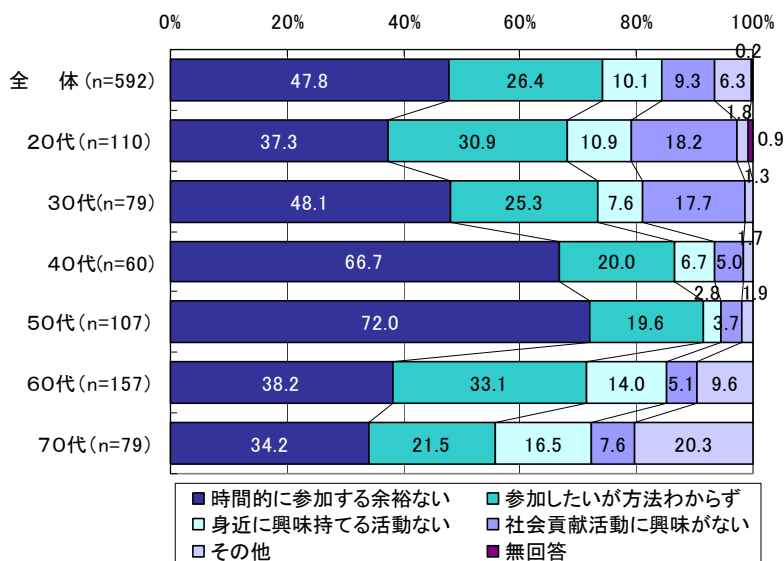
年代別にみると、どの年代でも「時間的に参加する余裕がない」と回答した人が最も多いが、特に40代（66.7%）、50代（72.0%）は特に高いことがわかった。これは男女別年代別にみても同じで40代男性（67.6%）、50代男性（63.4%）、40代女性（65.2%）、50代女性（77.3%）は「時間的に参加する余裕がない」という回答が多くなっている。

また、「社会貢献活動に興味がない」と答えた人の割合は、全体では9.3%と1割に満たないが、20代男性（23.6%）、30代男性（23.1%）では2割以上の人々が社会貢献活動に無関心であるという結果になっている。

図表3-14 ボランティア活動に参加しない理由



図表3-15 年代別 ボランティア活動に参加しない理由



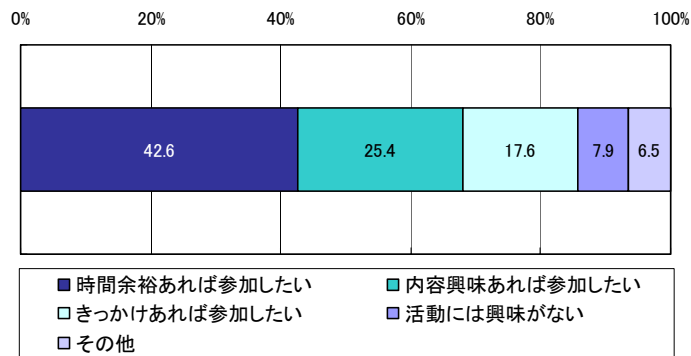
④今後のボランティア活動への参加意向（問4）

今後のボランティア活動への参加意向を尋ねたところ、「時間的に余裕があれば参加したい」（42.6%）と答えた人が最も多く、次いで「内容に興味があれば参加したい」が 25.4%、「きっかけがあれば参加したい」が 17.6%となっており、「活動には興味がない」（7.9%）と答えた人は1割以下である。

年代別にみると、どの年代でもこの順序は同じであるが、20代では「内容に興味があれば参加したい」（31.6%）が他の年代に比べてやや多いこと、20代と30代では「活動に興味がない」がそれぞれ、14.0%、14.8%と1割を超えていることが特徴的である（「活動に興味がない」と答えた割合が特に高いのは20代男性（20.0%）、30代男性（19.0%）である）。しかし、20代男性は「内容に興味があれば参加したい」と答えた人が37.3%と他の年代に比べて多くなっている。

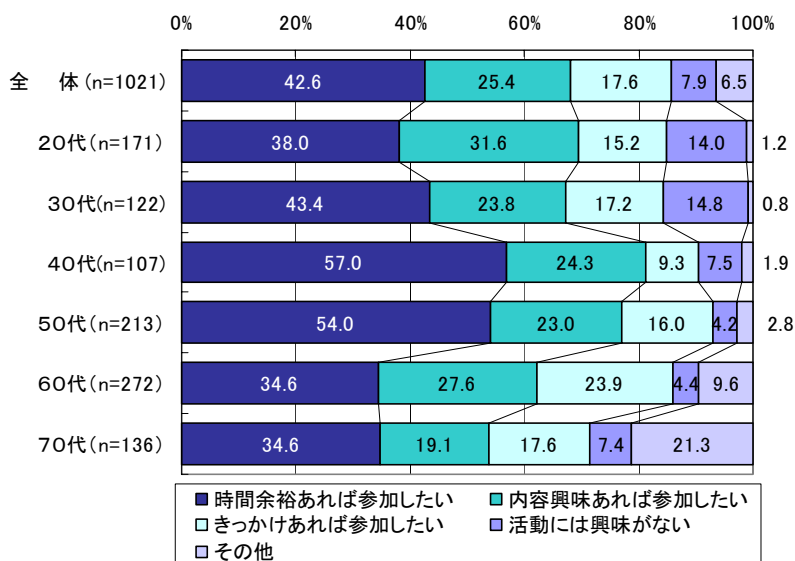
一方、「時間があれば参加したい」と答えた人が多いのは、40代男性（58.9%）、50代男性（54.3%）、40代女性（54.9%）、50代女性（53.8%）であった。

図表3-16 今後のボランティア活動への参加意向



n=1021

図表3-17 年代別 今後のボランティア活動への参加意向



(2) 国内旅行について

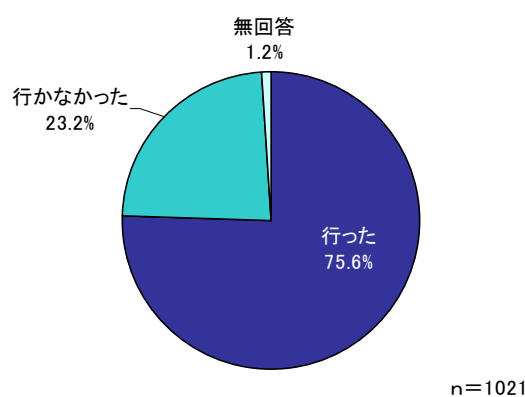
①国内旅行について（問5）

過去3年間に1泊以上の国内旅行を経験している人の割合は75.6%であった。

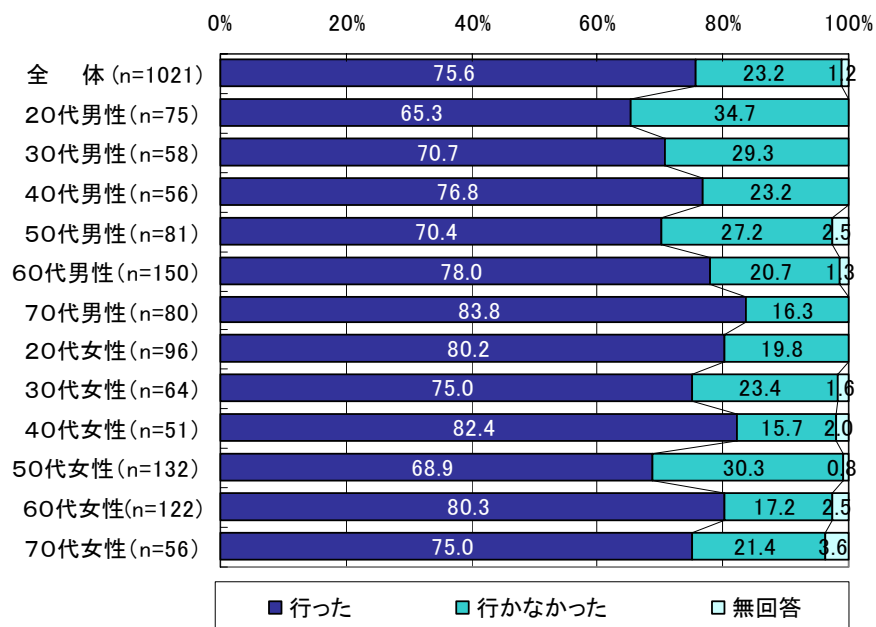
男女別年代別にみても、70代男性が国内旅行経験が最も高く、83.8%が1泊以上の国内旅行を経験している。次いで、40代女性（82.4%）、60代女性（80.3%）、20代女性（80.2%）の国内旅行経験率が高い。

また、ボランティア経験のある人（81.8%）の方が、ボランティア経験のない人（71.1%）より国内旅行経験率が高いことがわかった。

図表3-18 過去3年間の国内旅行経験



図表3-19 性・年代別 過去3年間の国内旅行経験

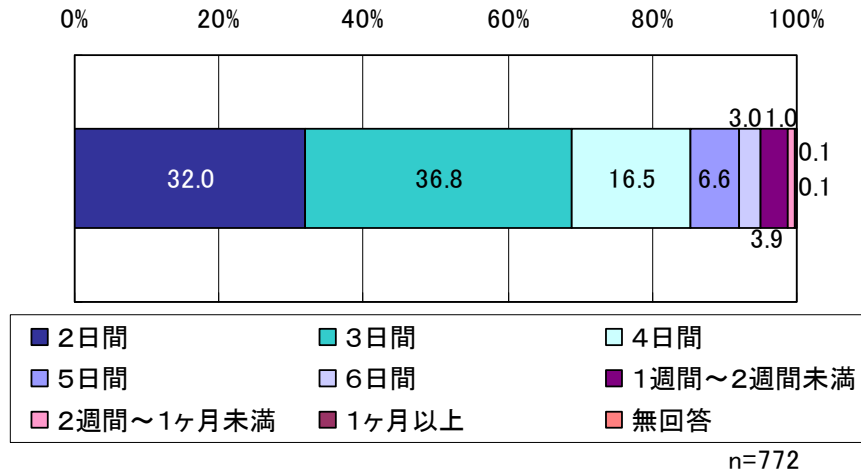


②過去3年間の国内旅行の最長期間（問6）

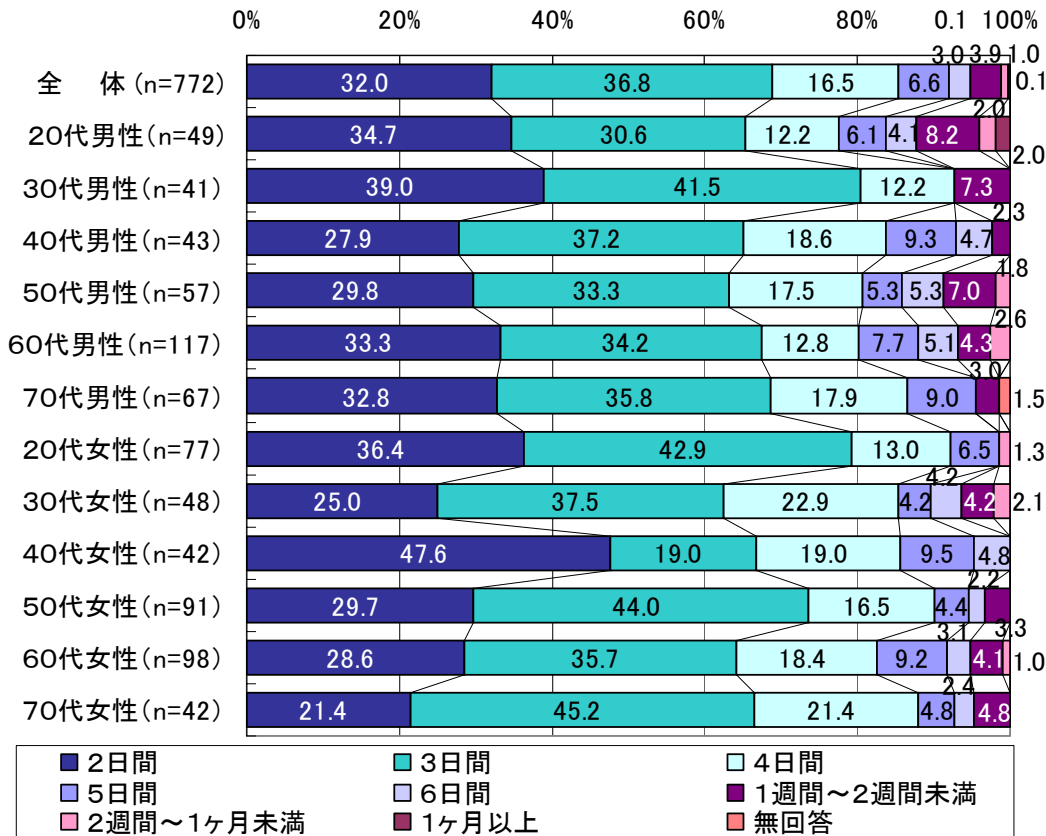
過去3年間における国内旅行経験者の1回の旅行に費やした最長期間は、「3日間」(36.8%)、「2日間」(32.0%)、「4日間」(16.5%)の順で高く、回答者の平均は3.6日であった。旅行期間が短いのは40代女性で、約半数(47.6%)は「2日間」であり、平均日数は3.0日である。

一方、旅行期間が最も長いのは20代男性であり、「1週間以上2週間未満」の国内旅行を経験している割合が8.2%であるのが特徴的である。

図表3-20 過去3年間の国内旅行の最長期間



図表3-21 性・年代別 過去3年間の国内旅行の最長期間



③過去3年間の最長国内旅行での主な行動（問7）

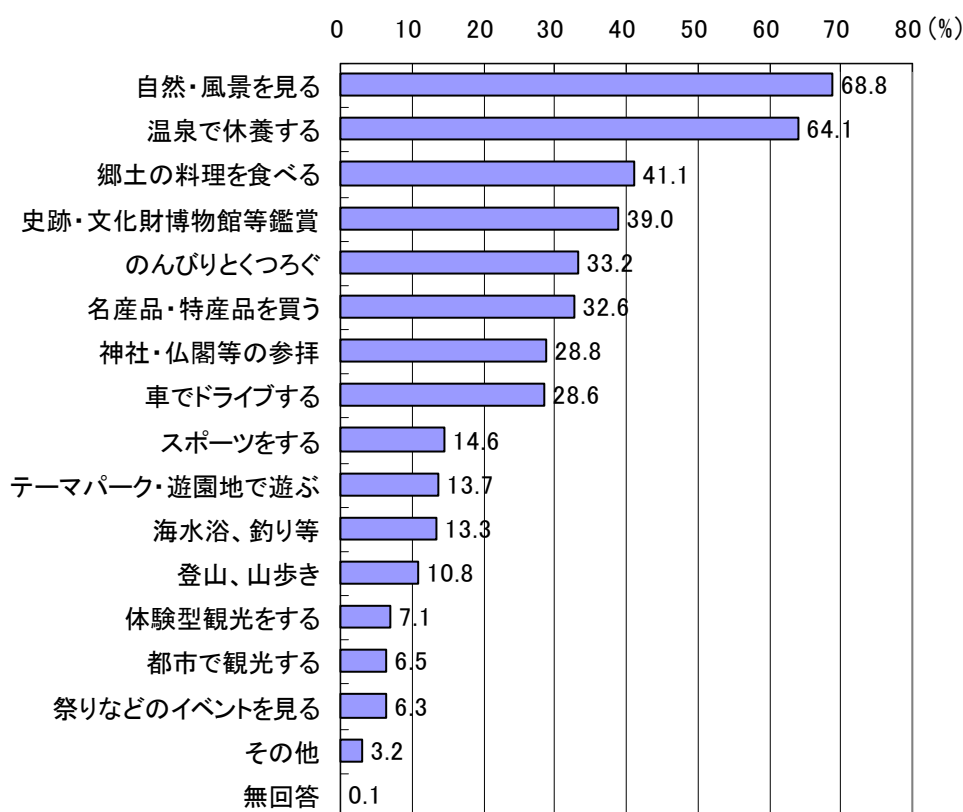
過去3年間に国内旅行を経験した人に旅行先でどのような行動をとったかを尋ねたところ、最も多かったのが「自然・風景を見る」（68.8%）であり、次いで「温泉で休養する」（64.1%）、
「郷土の料理を食べる」（41.1%）、「史跡・文化財博物館等鑑賞」（39.0%）、「のんびりとくつろぐ」（33.2%）、「名産品・特産品を買う」（32.6%）、「神社・仏閣等の参拝」（28.8%）、「車でドライブする」（28.6%）という順になっている。

男女別年代別にみると、「自然・風景を見る」と「温泉で休養する」は、比較的高年齢層で割合が高くなっており、「車でドライブする」、「スポーツをする」、「テーマパーク・遊園地で遊ぶ」、「海水浴・釣り等」といった活動的な行動は30～40代男女で高めになっている（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-42）。

地域別では「名産品・特産品を買う」と答えた割合が、首都圏（37.7%）の方が関西圏（26.7%）より高いことが特徴的である。

また「史跡・文化財博物館等鑑賞」と答えた人の割合は、ボランティア経験のある人（44.2%）の方が、ボランティア経験のない人（34.7%）より多い。

図表3-22 最長国内旅行での主な行動



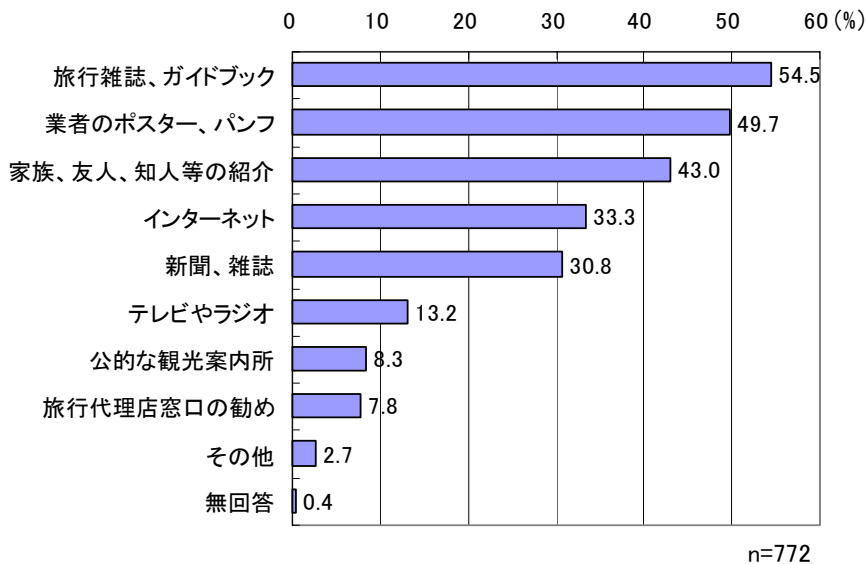
n=772

④国内旅行を考える時の情報入手経路（問8）

過去3年間に国内旅行を経験した人に対して、国内旅行に関する情報源を尋ねたところ、最も多かったのは「旅行雑誌、ガイドブック」（54.5%）であり、これはどの年代でも第1位であった。第2位は「業者のポスター、パンフ」（49.7%）であり、以下「家族、友人、知人等の紹介」（43.0%）、「インターネット」（33.3%）、「新聞、雑誌」（30.8%）の順になっている。男女別年代別にみると、50歳以上の女性では「業者のポスター、パンフ」、「家族、友人、知人等の紹介」の割合が大きくなり、20～40代男女では「インターネット」と答えた人の割合が大きくなっている。インターネットを情報源とする人の割合が特に高いのは、30代女性と40代男性である。

また、ボランティア経験のある人とない人を比べると、すべての情報入手経路においてボランティア活動経験のある人の方が、ボランティア経験のない人より割合が高くなっており、ボランティア活動経験のある人の方がより積極的に情報収集をしていることがわかる。

図表3-23 国内旅行の情報源



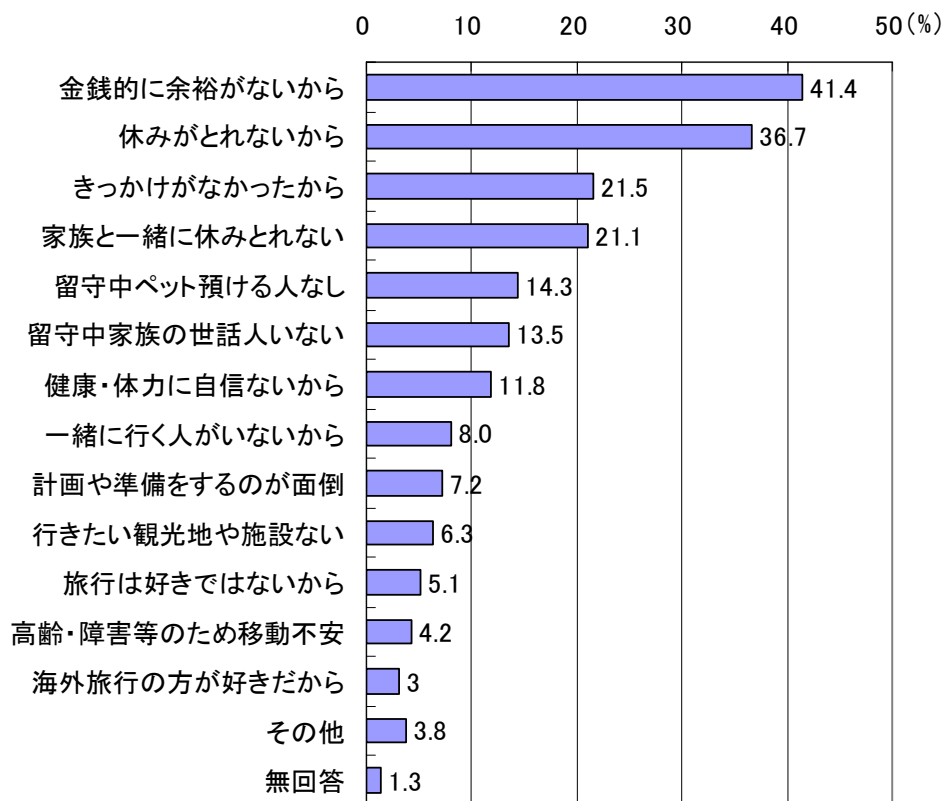
⑤ 1泊以上の国内旅行に行かなかった理由（問9）

過去3年間に国内旅行を経験していない人に対して、行かなかった理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「金銭的に余裕がないから」（41.4%）であり、次いで「休みがとれないから」（36.7%）、「きっかけがなかったから」（21.5%）、「家族と一緒に休みがとれない」（21.1%）の順になっている。

20、30代は、「金銭的に余裕がないから」あるいは「休みがとれないから」と答えた人の割合が高い。

「健康・体力に自身がないから」という人の割合は全体では11.8%とそれほど多くないが、70代男性では46.2%とほぼ2人に1人が健康や体力の問題を旅行に行かない理由としてあげているほか、60代女性でも38.1%と割合が高くなっている。

図表3-24 国内旅行に行かなかった理由

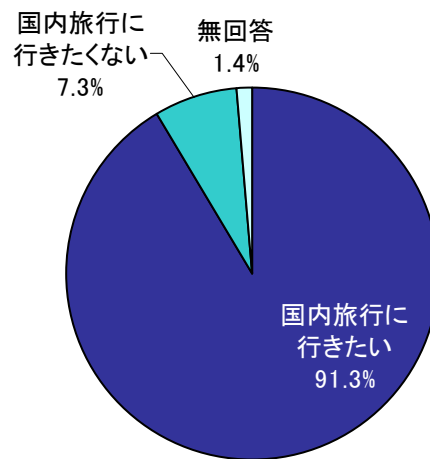


n=237

⑥今後3年以内の国内旅行への意向（問10）

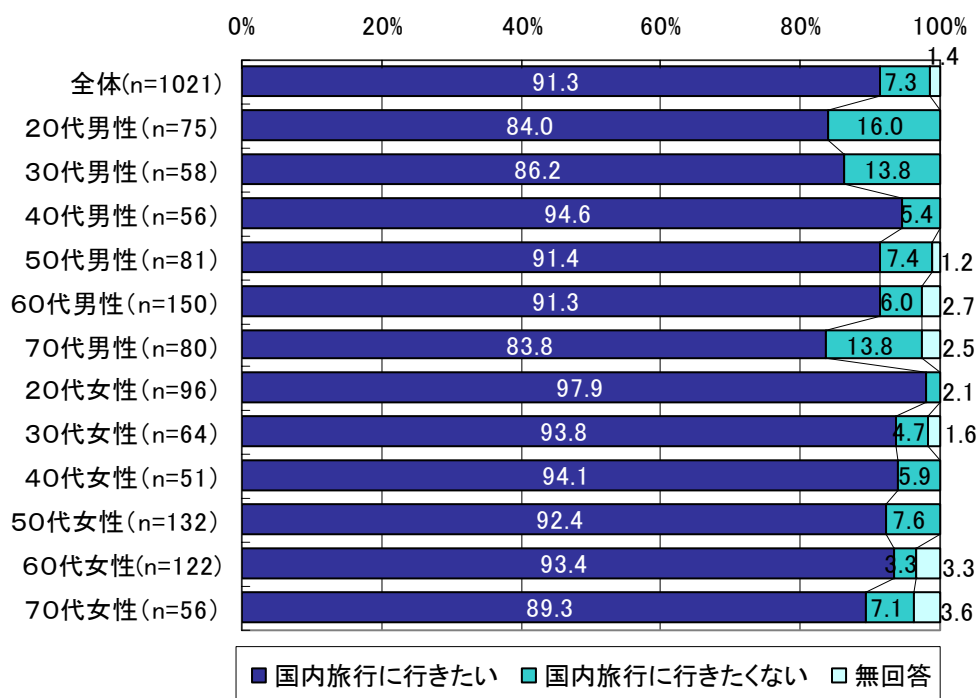
今後3年以内に国内旅行に行きたいと答えた人は91.3%であり、過去3年間に国内旅行を経験した人の割合（75.6%）を大きく上回っている。行きたくないと答えた人は、全体では7.3%であるが、20代男性（16.0%）と30代男性（13.8%）、70代男性（13.8%）では行きたくない人の割合が1割を超えている。これは20代女性の97.9%が行きたいと答えているのと対照的である。また、ボランティア経験のある人（94.9%）の方がボランティア経験のない人（88.7%）より、国内旅行への意向が高いことも分かった（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-44）。

図表3-25 今後3年以内の国内旅行への意向



n=1021

図表3-26 性・年代別 今後3年以内の国内旅行への意向



⑦今後の国内旅行回数や日数の増減意向（問11）

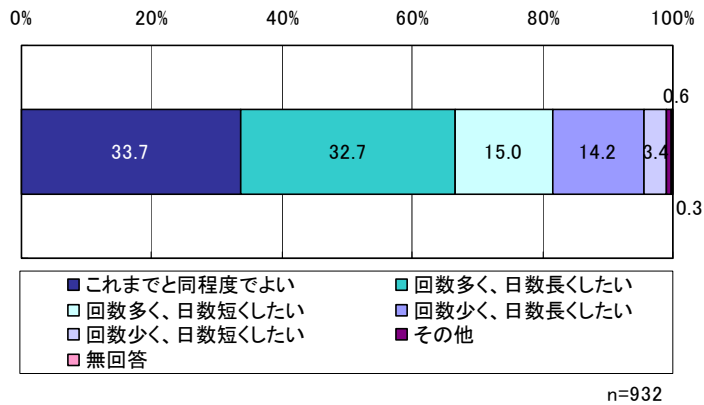
今後の国内旅行の回数や日数の増減について意向を尋ねたところ、最も多かったのは「これまでと同程度でよい」（33.7%）であったが、「回数を多く、日数も長くしたい」（32.7%）と答えた人も同程度であり、「回数を多く、日数を短くしたい」（15.0%）や「回数を少なく、日数を長くしたい」（14.2%）と答えた人より多かった。

男女別にみると、女性では「これまでと同程度でよい」と答えた割合がもっとも多く（36.3%）、男性は「回数を多く、日数も長くしたい」と答えた人の割合の方が多くなっている（35.6%）。

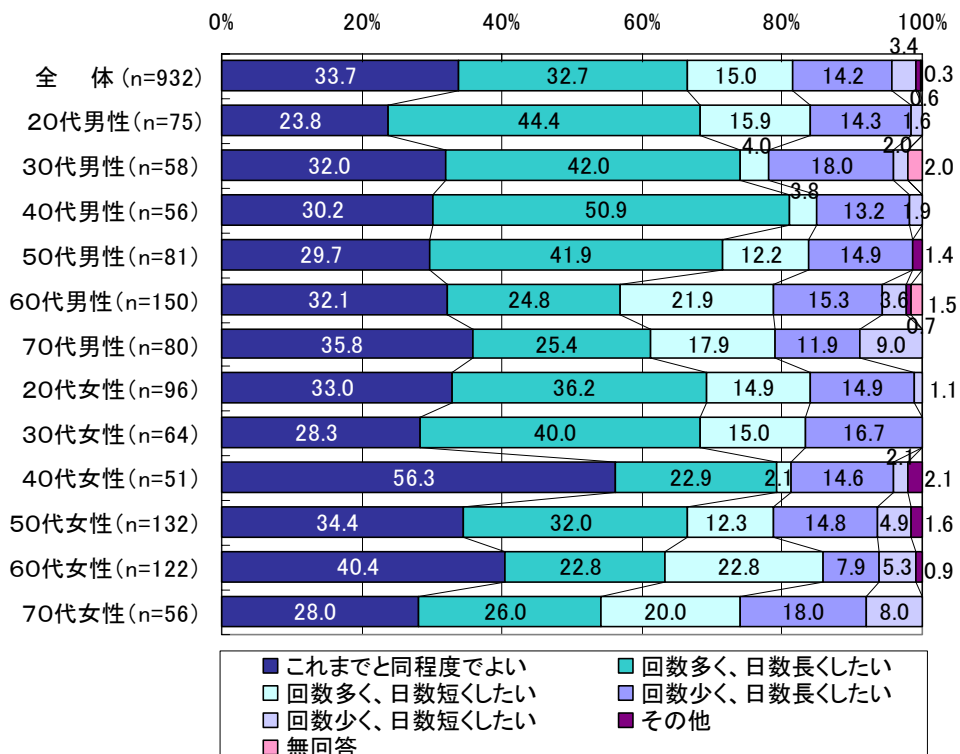
「回数を多く、日数も長くしたい」と答えた人の割合が多いのは、40代男性（50.9%）、20代男性（44.4%）、30代男性（42%）、50代男性（41.9%）、30代女性（40.0%）であった。

また、60代では「回数を多くして、日数を短くしたい」という回答の割合が、22.3%とやや高めになっている（60代女性では22.8%、60代男性では21.9%）。

図表3-27 今後の国内旅行回数や日数の増減意向



図表3-28 性・年代別 今後の国内旅行回数や日数の増減意向

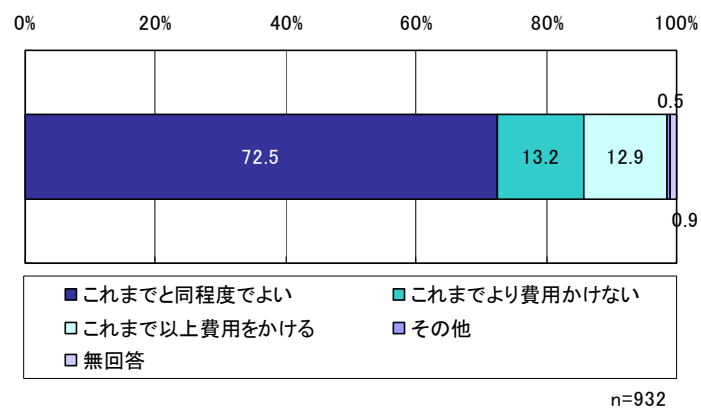


⑧国内旅行費用の増減意向（問12）

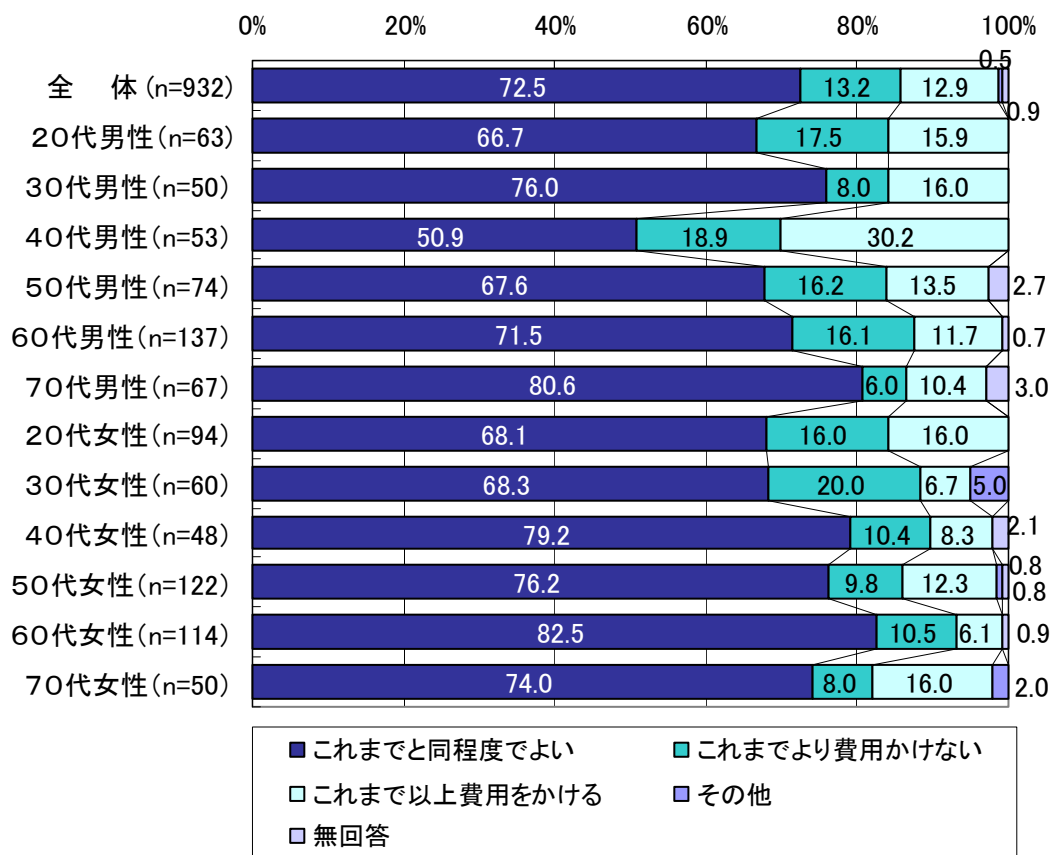
今後3年以内に国内旅行に行きたいと答えた人に対して、今後の国内旅行に関する費用の増減意向を尋ねたところ、「これまでと同程度でよい」と答えた人が最も多く72.5%であり、「これまでより費用をかけない」と答えた人は13.2%、「これまで以上の費用をかける」と答えた人は12.9%であった。

どの年代も「これまでと同程度でよい」と答えた人が7割前後を占めるが、40代男性の30.2%は、「これまで以上に費用をかける」と答えており、他の層より飛び抜けて高い割合を示している。

図表3-29 国内旅行費用の増減意向



図表3-30 性・年代別 国内旅行費用の増減意向



(3) 「ボランティアホリデー」について

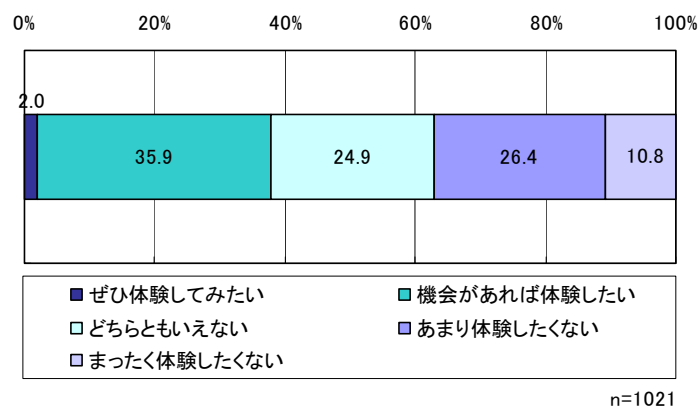
① 「ボランティアホリデー」体験希望（問13）

「ボランティアホリデー」の体験を希望するかどうかを尋ねたところ、「ぜひ体験してみたい」、「機会があれば体験したい」と答えた人の合計（＝体験したい人）の割合は37.9%であり、「あまり体験したくない」あるいは「まったく体験したくない」と答えた人の合計（＝体験したくない人）の割合が37.2%、「どちらともいえない」と答えた人が24.9%であった。

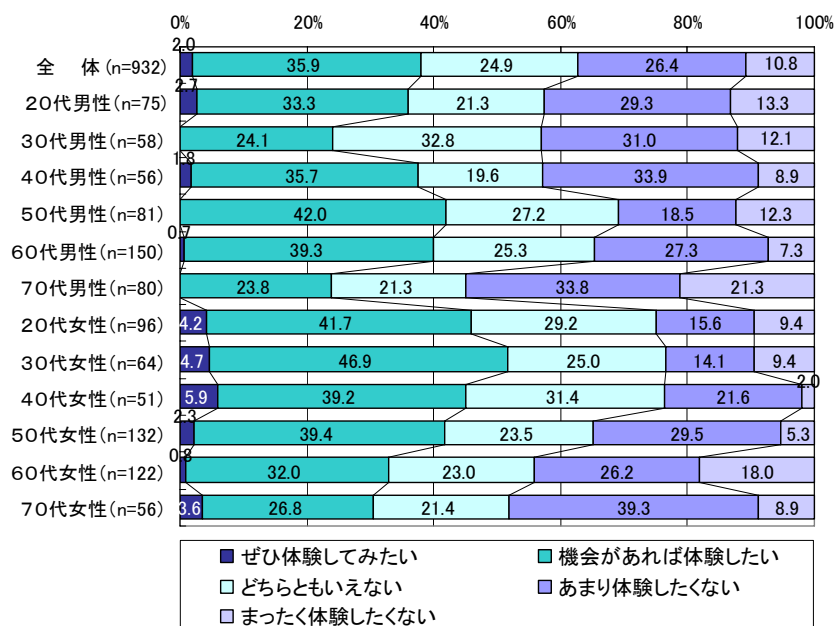
これをボランティア経験のある人とない人で比べると、ボランティア経験者の場合、体験したい人が46%で、体験したくない人が31%であるのに対して、ボランティア体験のない人の場合にはこの割合が逆転してそれぞれ32.1%と41.7%となっている（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-45）。

また、男女別年代別にみると、体験したいと答えている人の割合が比較的多いのは、30代女性（51.6%）、20代女性（45.9%）、40代女性（45.1%）である。逆に体験したくない（＝「あまり体験したくない」＋「まったく体験したくない」）と答えている人の割合が比較的多いのは、70代男性（55.1%）、70代女性（48.2%）、60代女性（44.2%）である。

図表3-31 「ボランティアホリデー」体験希望



図表3-32 性・年代別「ボランティアホリデー」体験希望

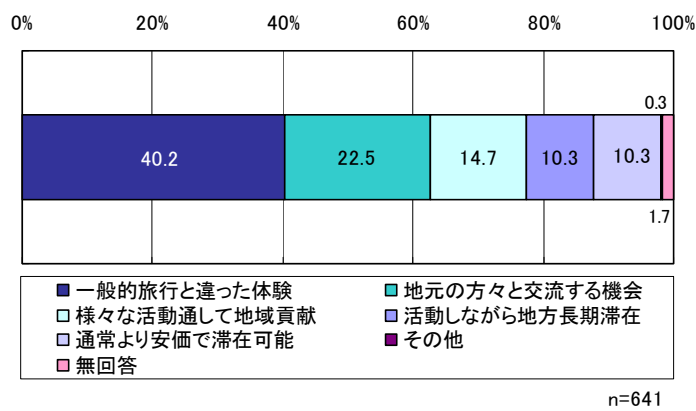


②「ボランティアホリデー」説明文の最も関心のある部分について（問14）

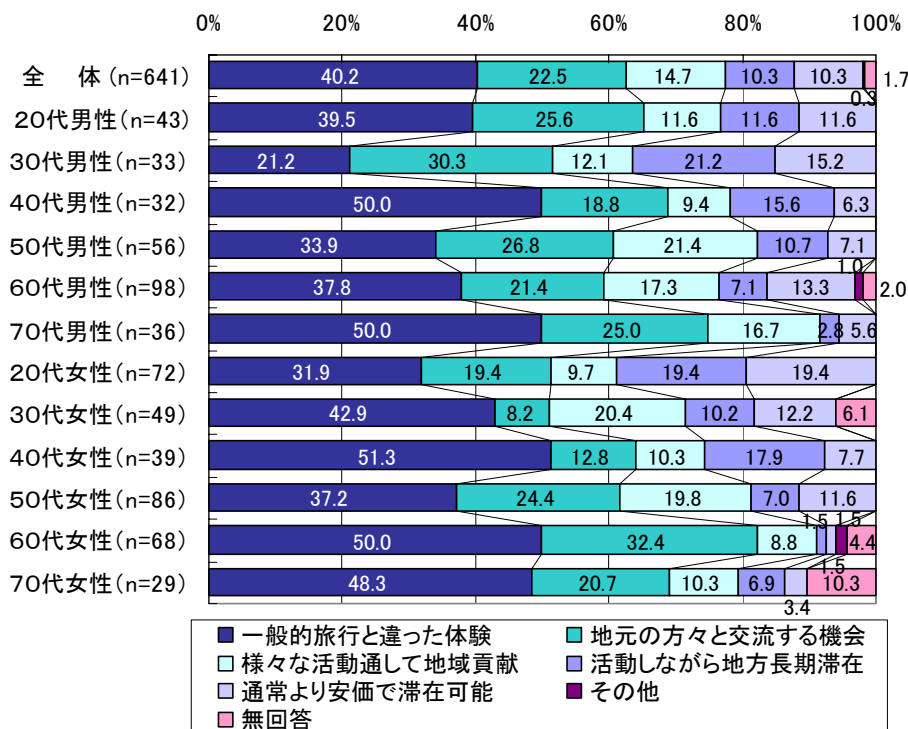
「ボランティアホリデー」について「ぜひ体験してみたい」、「機会があれば体験してみたい」「どちらともいえない」と答えた人に、「ボランティアホリデー」の説明文で最も関心のある部分について尋ねたところ、「一般的旅行と違った体験」という回答が最も多く（40.2%）、次いで「地元の方々と交流する機会」（22.5%）、「様々な活動を通して地域に貢献する」（14.7%）、「活動しながら地方に長期滞在する」（10.3%）、「通常より安価で滞在可能」（10.3%）という順であった。

男女別年代別にみると、「一般的旅行と違った体験」は40代の男女、60代女性、70代男性で50%前後の高い関心が見られた。60代女性の「地元の方々と交流する機会」（32.4%）、30代男性の「活動しながら地方滞在」（21.2%）も比較的高い数字となっている。

図表3-33 「ボランティアホリデー」説明文の最も関心のある部分



図表3-34 性・年代別「ボランティアホリデー」説明文の最も関心のある部分



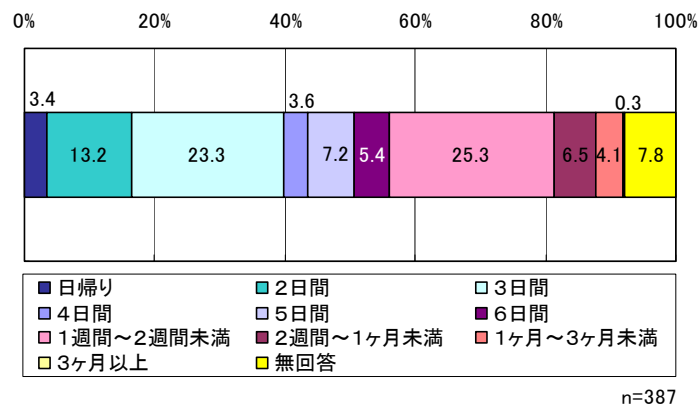
③「ボランティアホリデー」体験の希望滞在期間（問15）

「ボランティアホリデー」を体験したい人に対して、希望滞在期間を尋ねたところ、最も多いのは「1週間～2週間未満」(25.3%)であり、次が「3日間」(23.3%)、以下「2日間」(13.2%)、「5日間」(7.2%)、「2週間～1ヶ月未満」(6.5%)の順であった。平均値は、9.3日であった。

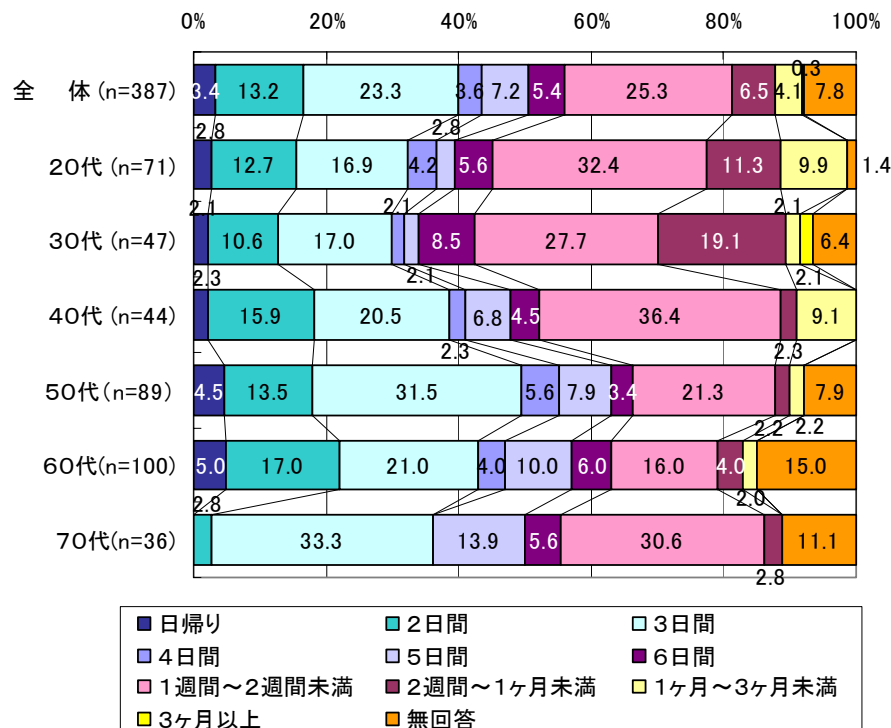
年代別にみると、40代までは「1週間～2週間未満」を希望する人の割合が一番多いのに対して、50代以上になると「3日間」が最も多くなる。

男女別年代別にみると、「1週間～2週間未満」を希望する割合は、男性の場合には年代で大きな差はなく、ほぼ25～30%であるのに対して、女性の場合には20代女性(36.4%)と40代女性(39.1%)では「1週間～2週間未満」を希望する人が多いのに対して、50代以上になるとより短い滞在期間を希望する人が多くなる傾向にある。ただし、70代については「1週間～2週間未満」を希望する人がやや多くなっている。(参考資料「大都市住民に向けたニューズ調査アンケート集計表」参照・P資料-46)

図表3-35 「ボランティアホリデー」体験の希望滞在期間



図表3-36 年代別 「ボランティアホリデー」体験の希望滞在期間



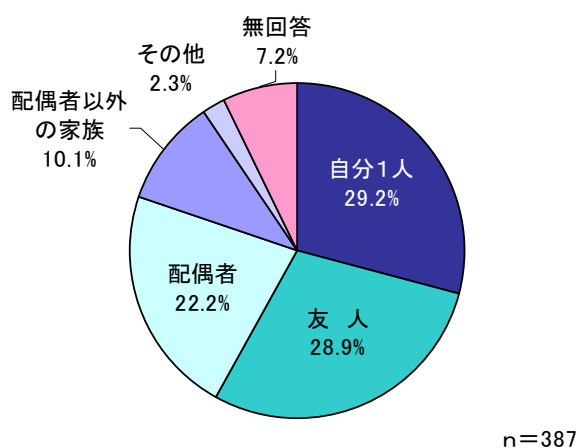
④「ボランティアホリデー」に一緒に行きたい人（問16）

「ボランティアホリデー」を体験したい人に対して、一緒に行きたい人を尋ねたところ、「自分1人」と答えた人が29.2%、「友人」が28.9%、「配偶者」が22.2%、「配偶者以外の家族」が10.1%であった。

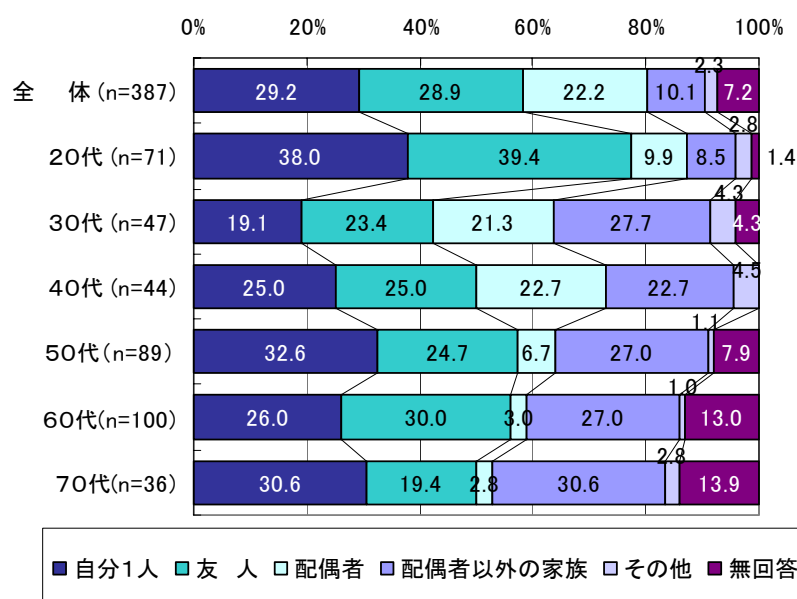
20代は「友人」(39.4%)や「自分1人」(38.0%)を希望する人が多いが、30、40代は、他の世代に比べて「配偶者」を希望する回答が20%強(それぞれ27.7%、22.7%)と多くなる傾向があり、「自分1人」、「配偶者」、「友人」という回答の割合がほぼ均等になる。

また、男女別年代別にみると、男性は30代以降、配偶者と一緒に行きたいと回答した人の割合が30%弱から40%あるのに対して、30代以降の女性で配偶者と一緒に行きたいと回答した人の割合は2割弱である。特に50歳以上の女性は、友人と行きたいと回答する割合が増加する。(参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-46)

図表3-37 「ボランティアホリデー」に一緒に行きたい人



図表3-38 年代別「ボランティアホリデー」に一緒に行きたい人



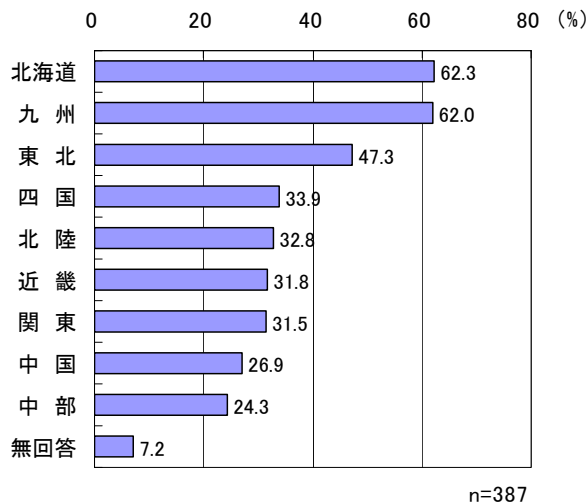
⑤ 「ボランティアホリデー」に行きたい地域（問17）

「ボランティアホリデー」を体験したい人が行きたい地域は、北海道（62.3%）、九州（62.0%）の2地域が最も多く、次いで東北（47.3%）、四国（33.9%）、北陸（32.8%）、近畿（31.8%）の順になっている。

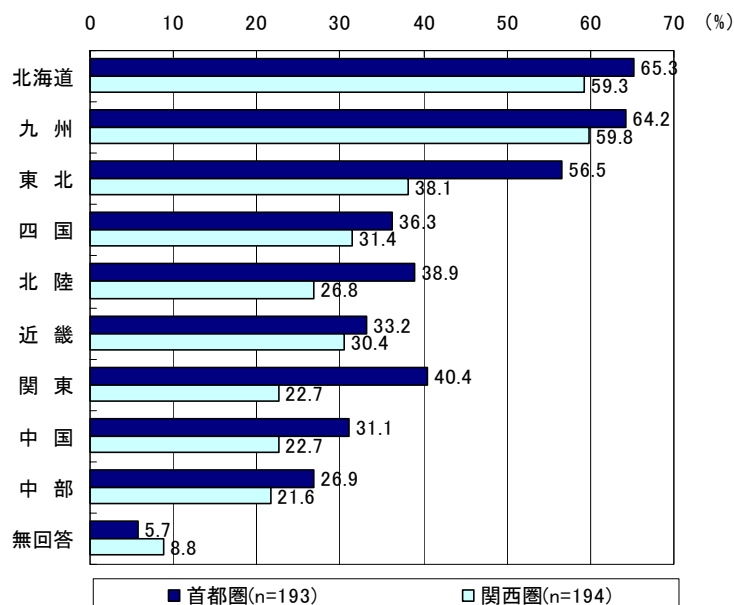
居住地別にみると、首都圏に住んでいる人は、北海道（65.3%）、九州（64.2%）、東北（56.5%）の次は、関東（40.4%）、北陸（38.9%）、四国（36.3%）の順に希望が多い。また、関西圏に住んでいる人の場合には、九州（59.8%）、北海道（59.3%）が多く、第3位が東北（38.1%）であり、以下は四国、近畿、北陸が30%前後という結果になっている。

年代別にみると、40代までの比較的若い層は、8割前後が行きたい地域として北海道と九州をあげているが、50歳以上になると北海道や九州を希望する割合は5割前後まで減少し、各地域に分散する傾向にある。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-47）

図表3-39 「ボランティアホリデー」に行きたい地域



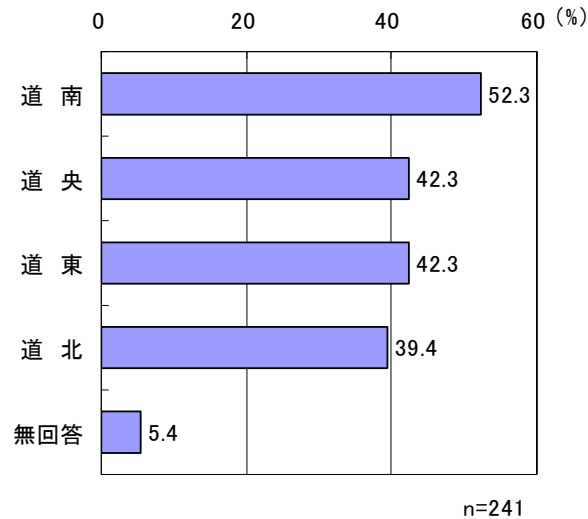
図表3-40 居住地別 「ボランティアホリデー」に行きたい地域



⑥-1 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：北海道

北海道の中では、道南（52.3%）、道央（42.3%）、道東（42.3%）、道北（39.4%）の順に希望が多い。年代別にみると（サンプル数が少ないので参考としてだが）、比較的若い世代は道南や道央を希望する人が多い傾向にある。

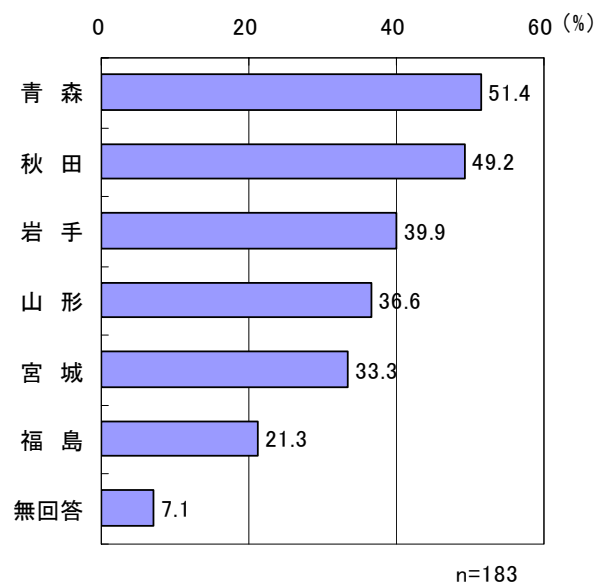
図表 3-4 1 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：北海道



⑥-2 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：東北

東北の中では、青森（51.4%）、秋田（49.2%）、岩手（39.9%）、山形（36.6%）、宮城（33.3%）、福島（21.3%）の順に希望が多く、地理的に北に位置する県から順に関心が高いことがわかる。

図表 3-4 2 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：東北

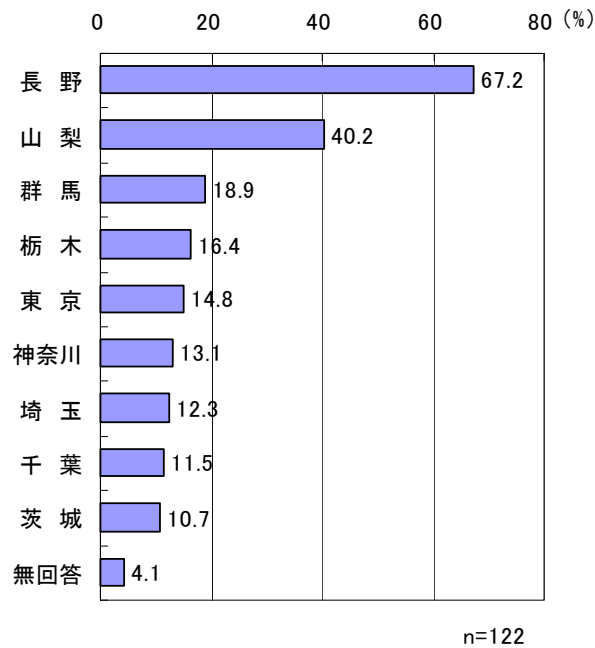


⑥-3 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：関東

関東の中では、圧倒的に長野（67.2%）と山梨（40.2%）の人气が高く、他の都県は20%以下である。特にボランティアの経験のある人には、長野（77.9%）と山梨（45.6%）の人气が高い。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-48）

また、関西圏に住んでいる人には東京でボランティアホリデーをしたいという希望を持つ人が20.5%いる。

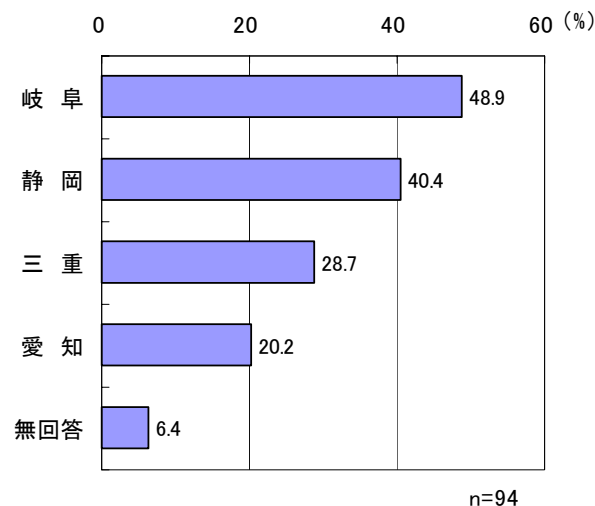
図表3-43 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：関東



⑥-4 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：中部

中部の中では、岐阜（48.9%）、静岡（40.4%）、三重（28.7%）、愛知（20.2%）の順で関心が高い。特に、岐阜はボランティア未経験者よりも経験者（55.2%）に、静岡は関西圏よりも首都圏在住者（46.2%）に人気がある。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-49）

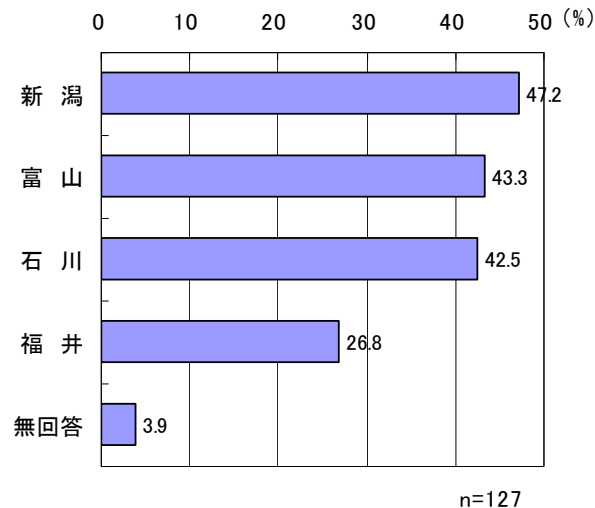
図表3-44 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：中部



⑥-5 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：北陸

北陸の中では、新潟（47.2%）、富山（43.3%）、石川（42.5%）、福井（26.8%）の順で関心が高い。特に、富山は女性よりも男性（51.9%）で、ボランティア未経験者よりも経験者（48.6%）で高めであった。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-49）

図表 3-45 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：北陸

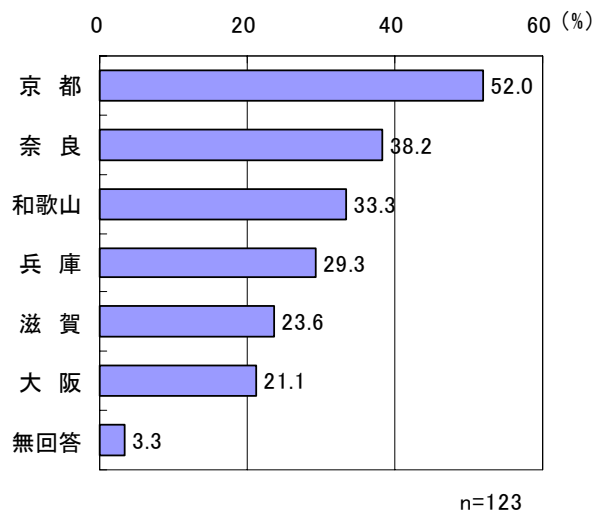


⑥-6 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：近畿

近畿の中では、京都（52.0%）、奈良（38.2%）、和歌山（33.3%）、兵庫（29.3%）、滋賀（23.6%）、大阪（21.1%）の順で関心が高い。特に、京都は首都圏在住者（65.6%）に、男性よりも女性（61.0%）に人気が高い。奈良も関西圏在住者（30.5%）より首都圏在住者（45.3%）に人気があるが、女性（33.8%）よりも男性（45.7%）に人気が高い。

また、関西圏在住者の行きたい府県は、京都、兵庫、和歌山、奈良に分散しており、いずれも30%台である。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-50）

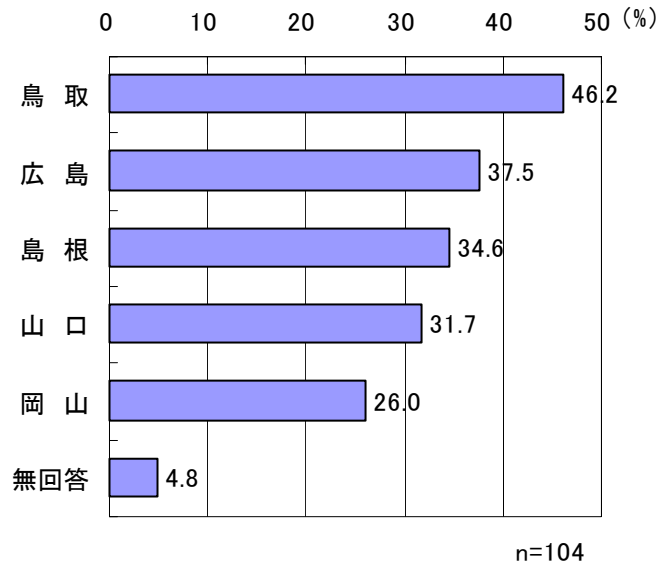
図表 3-46 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：近畿



⑥-7 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：中国

中国の中では、鳥取（46.2%）、広島（37.5%）、島根（34.6%）、山口（31.7%）、岡山（26.0%）の順に関心が高い。鳥取、広島は関西圏在住者よりも首都圏在住者に人気があり、岡山は逆に関西在住者の方に人気がある。また、鳥取、広島は、男性よりも女性、ボランティア未経験者よりも経験者の方が高めであるが、島根は女性よりも男性に人気がある。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-51）

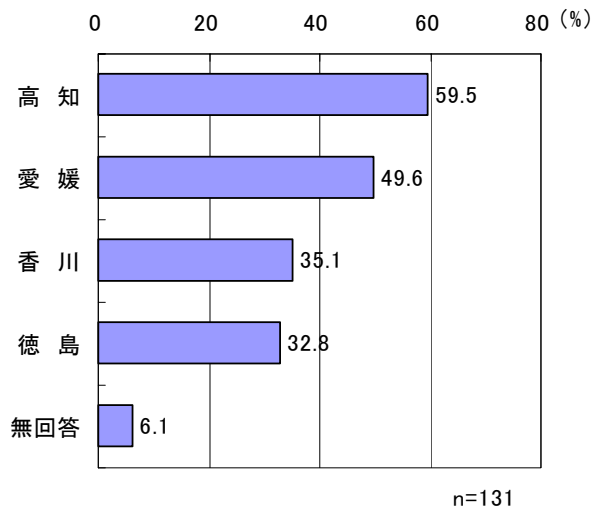
図表3-47 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：中国



⑥-8 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：四国

四国の中では、高知（59.5%）、愛媛（49.6%）、香川（35.1%）、徳島（32.8%）の順に関心が高い。特に、関西圏在住者よりも首都圏在住者に「高知」（68.6%）、「愛媛」（57.1%）が人気があることがわかる。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-50）

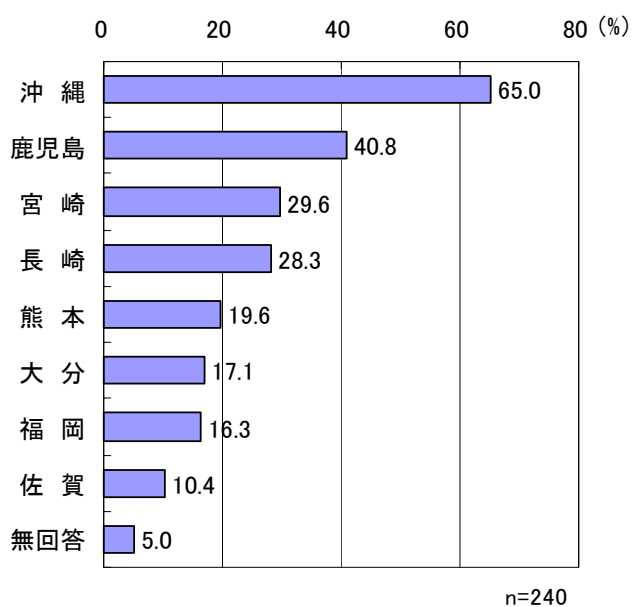
図表3-48 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：四国



⑥-9 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：九州

九州の中では、沖縄（65.0%）が飛び抜けて関心が高く、2番が鹿児島（40.8%）、以下宮崎（29.6%）、長崎（28.3%）、熊本（19.6%）、大分（17.1%）、福岡（16.3%）、佐賀（10.4%）の順であった。鹿児島は30代、40代に人気があり、宮崎は40代に人気がある。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-51）

図表3-49 「ボランティアホリデー」に行きたい地域：九州



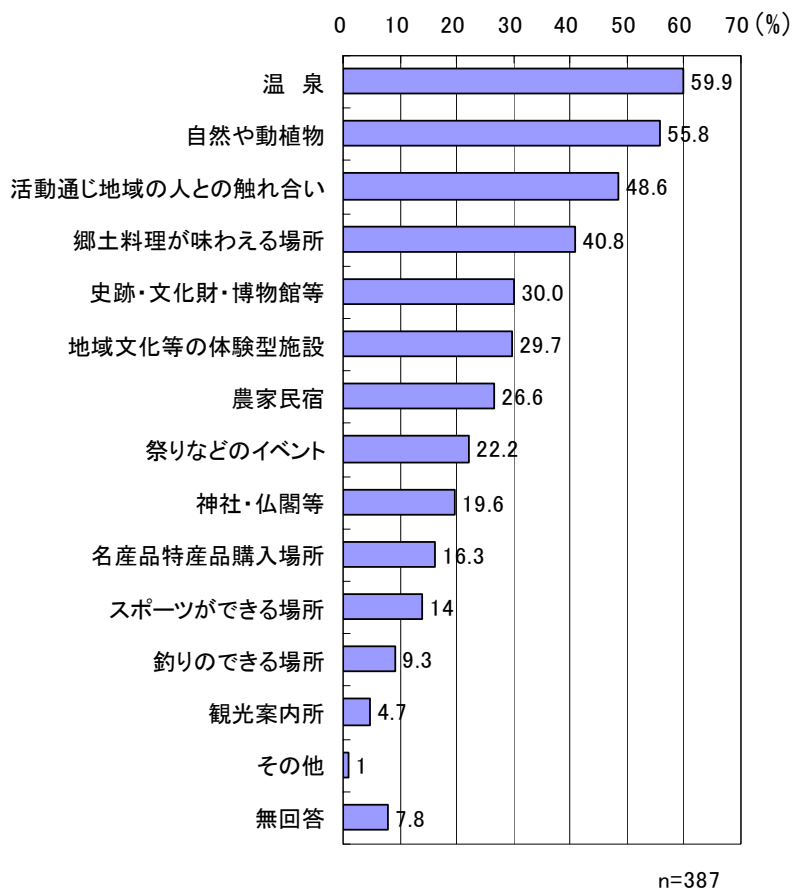
⑦「ボランティアホリデー」滞在地域に欲しいもの（問18）

「ボランティアホリデー」を体験したい人に対して、滞在地域に欲しいものを尋ねたところ、最も希望が多かったものは、「温泉」（59.9%）であり、第2位が「自然や動植物」（55.8%）、以下「活動通じ地域の人との触れ合い」（48.6%）、「郷土料理が味わえる場所」（40.8%）、「史跡・文化財・博物館等」（30.0%）の順となっている。

「温泉」は30代（70.2%）、20代（69.0%）に人気が高く、また「自然や動植物」は40代（79.5%）、「郷土料理が味わえる場所」は40代（56.8%）、「農家民宿」は30代（38.3%）、「祭りなどのイベント」は20代（38.0%）、40代（40.9%）、「史跡・文化財・神社仏閣等」は70代（38.9%）に人気がある。

男女別にみると、「祭りなどのイベント」、「名産品特産品購入場所」は男性より女性で希望する人の割合が多く、「釣りができる場所」は女性より男性に希望する人の割合が多かった。

図表3-50 「ボランティアホリデー」滞在地域に欲しいもの

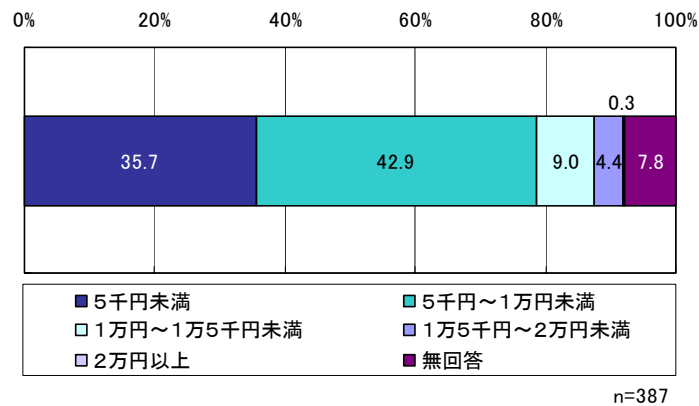


⑧負担できる一日当たりの費用（問19）

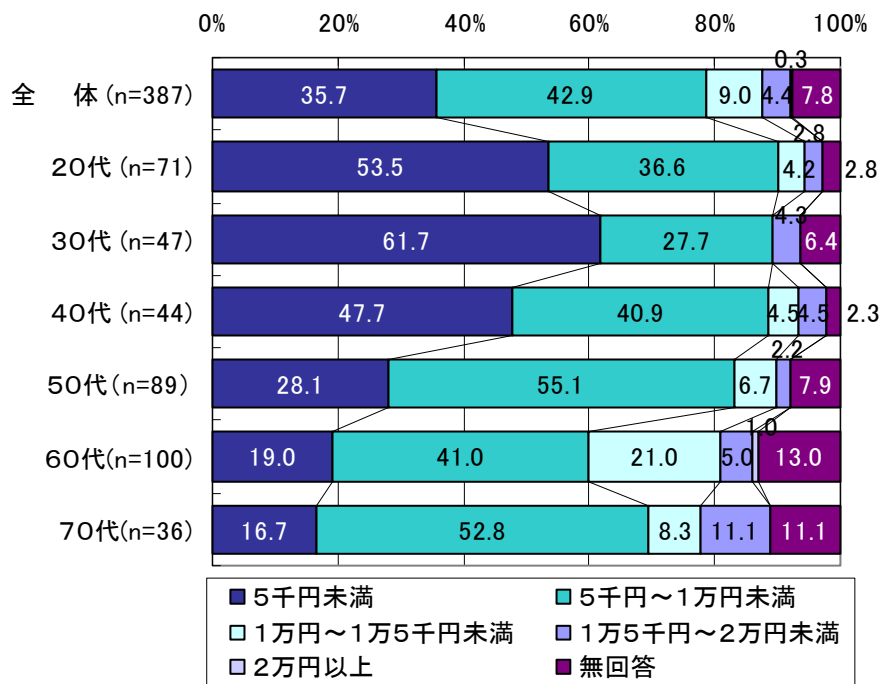
「ボランティアホリデー」を体験したい人に対して、1日あたりの自己負担可能額を尋ねたところ、「5千円～1万円未満」が42.9%で最も多く、次が「5千円未満」が35.7%、以下「1万円～1万5千円未満」（9.0%）、「1万5千円～2万円未満」（4.4%）であった。全体の平均額は、6.6千円であった。

年代別にみると、20～40代は「5千円未満」が最も多く、50歳以上になると「5千円～1万円未満」負担できるという人が50%程度まで増える。特に、60歳代では1万円以上負担できる人の割合が27%にもなり、年代によって負担可能費用にかなり差があることがわかった。

図表3-51 負担できる一日当たりの費用



図表3-52 年代別 負担できる一日当たりの費用

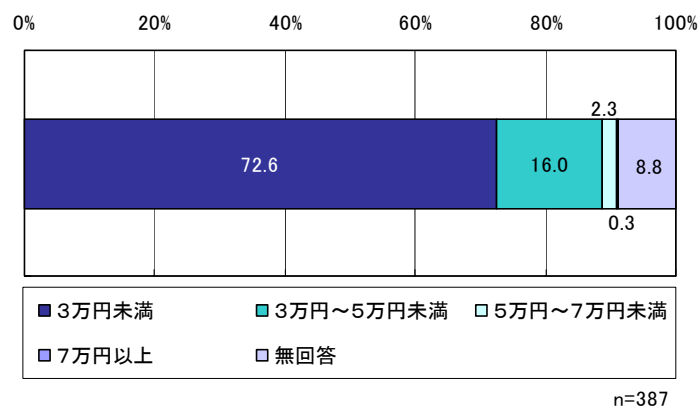


⑨往復の交通費（問20）

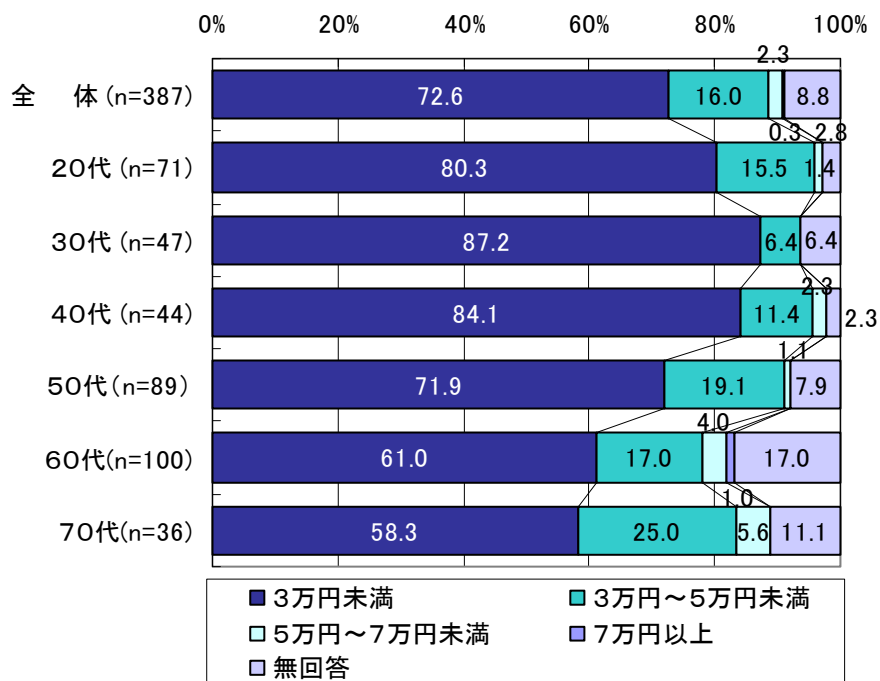
「ボランティアホリデー」を体験したい人に対して、自己負担可能な往復の交通費を尋ねたところ、「3万円未満」（72.6%）という回答が圧倒的に多く、「3万円～5万円未満」が16.0%、「5万円～7万円未満」が2.3%、「7万円以上」が0.3%となっている。平均値は2.5万円であった。

年代別にみると、60歳以上になると自己負担可能な交通費の額が増える傾向にあるが、「3万円未満」を選んだ人の割合が極めて高いのは、30代（87.2%）と40代（84.1%）であり、30代と40代は20代より負担可能額の平均値が低いという結果になっている。

図表3-53 往復の交通費



図表3-54 年代別 往復の交通費

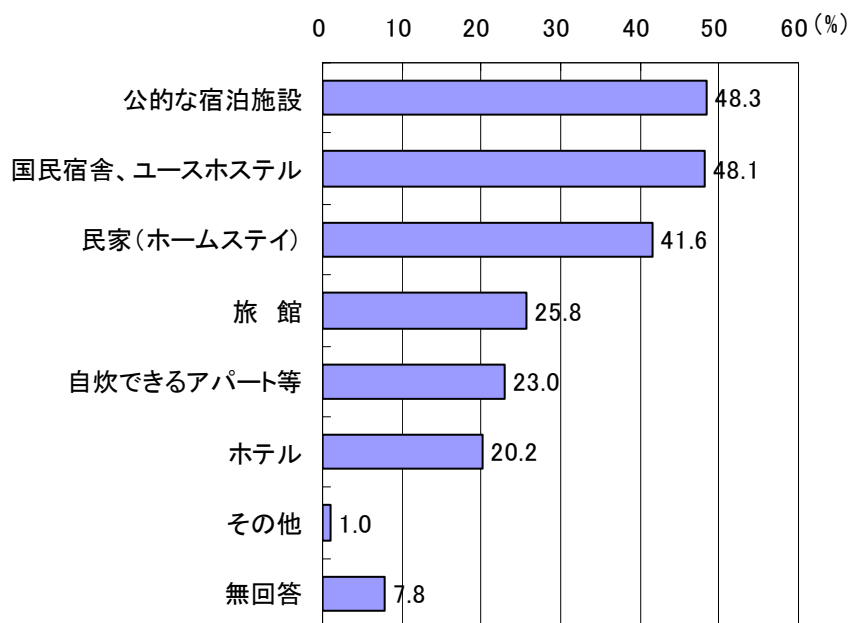


⑩希望する宿泊施設（問21）

「ボランティアホリデー」を体験したい人が希望する宿泊施設については、「公的な宿泊施設」（48.3%）と「国民宿舎、ユースホステル」（48.1%）という回答が多く、次いで「民家（ホームステイ）」（41.6%）、「旅館」（25.8%）、「自炊できるアパート等」（23.0%）、「ホテル」（20.2%）という順になっている。

年代別にみると、40代は「公的な宿泊施設」（63.6%）と「国民宿舎、ユースホステル」（59.1%）に回答が集中しているが、20代、30代では「民家（ホームステイ）」を希望する人の割合が「公的な宿泊施設」や「国民宿舎、ユースホステル」と同じくらいになる。また、20代は他の世代に比べて「旅館」や「自炊できるアパート」、「ホテル」を希望する人の割合が高くなるのが特徴的である。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-53）

図表3-55 希望する宿泊施設



n=387

⑪宿泊施設で欠かせない条件（問22）

宿泊する施設の欠かせない条件について尋ねたところ、以下のような回答があった。

【風呂・シャワー】

最も多い回答は、風呂やシャワーである。単に「お風呂があること」、「お風呂は絶対」という回答もあるが、「自分1人で使えるお風呂」や「お風呂が自由な時間に使える環境」、「お風呂、できれば温泉」という回答もある。

【トイレ】

次に多いのはトイレである。トイレについては「部屋にトイレが欲しい」、「トイレが個別になっている施設」という意見が複数みられ、風呂に比べて共用でないことが望まれる。

また、「水洗トイレ」、「トイレが水洗であって欲しいです」という回答も複数あり、水洗トイレであることが望ましい。

【プライバシー】

部屋については、「相部屋や仕切られていない部屋は避けて欲しい」、「一人部屋」、「1人になって休息をとれる寝所」、「プライバシーのある空間」、「一人になれる場所がある」、「プライベートな部屋(寝る場所)」、「一人になれる場所が欲しい」という回答があり、個室を望む声はかなりある。

【食事・郷土料理】

また、「食事がきちんとできる事」、「おいしい食事」、「食事の充実(朝食・夕食)」のように食事付きを望む声も複数ある。中には「その土地の料理をいただくことができる」、「料理が食べれるところ(その土地の料理)」、「食事(現地の物が食べたい)」というように、その地域の郷土料理を希望する声もある。

【清潔さ】

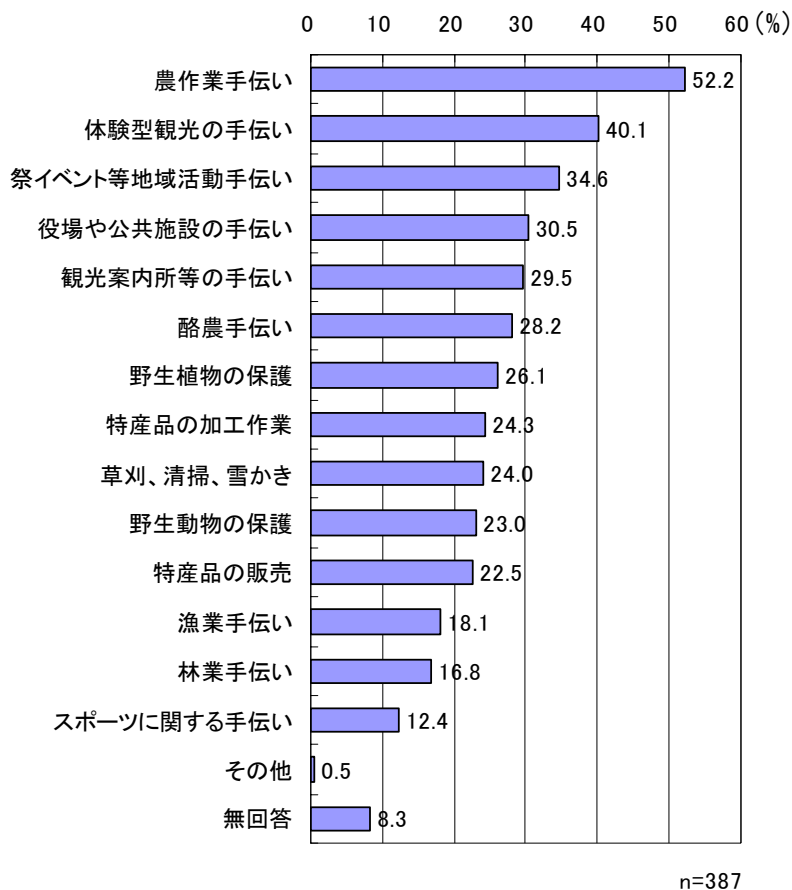
この他、「清潔な宿舎」、「清潔感がないと困る」、「風呂、トイレが清潔なこと(虫などいない)」、「寝具の衛生」、「清潔な風呂」、「衛生的で明るい」、「寝具が清潔なこと」のように、清潔であることや衛生的であることを望む声も多い。

⑫滞在地で行いたいボランティア活動について（問23）

「ボランティアホリデー」を体験したい人に対して、滞在地で行いたいボランティア活動について質問したところ、「農作業手伝い」が52.2%と最も高く、次いで「体験型観光の手伝い」（40.1%）、「祭イベント等地域活動手伝い」（34.6%）、「役場や公共施設の手伝い」（30.5%）、「観光案内所等の手伝い」（29.5%）、「酪農手伝い」（28.2%）、「野生植物の保護」（26.1%）、「特産品の加工作業」（24.3%）、「草刈り、清掃、雪かき」（24.0%）の順となっている。

年代別にみると「農作業手伝い」は20代（69.0%）と30代（68.1%）で特に人気が高く、「体験型観光の手伝い」は40代（52.3%）に、「祭イベント等地域活動手伝い」も40代（45.5%）に人気がある。「役場や公共施設の手伝い」は50歳以上の女性に人気があり、「酪農手伝い」は20代、30代の女性に人気がある。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-54）

図表3-56 滞在地で行いたいボランティア活動について

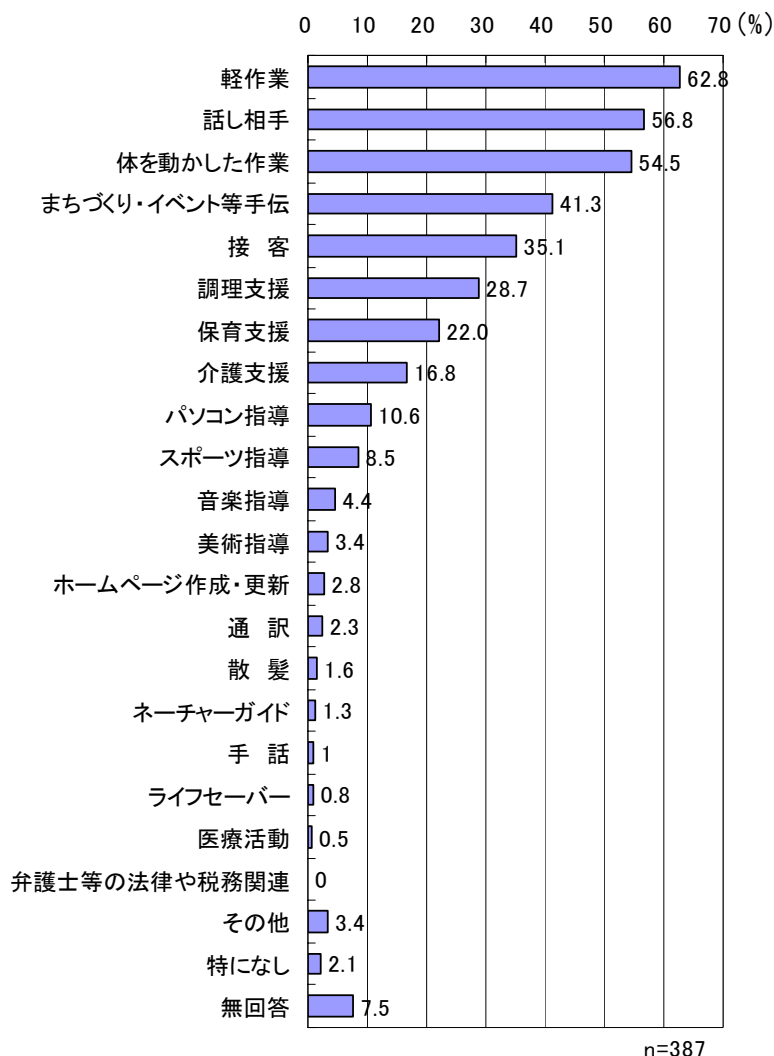


⑬提供できるボランティア内容（問24）

「ボランティアホリデー」を体験したい人に対して、提供できるボランティア内容を尋ねたところ、半数以上の人々が「軽作業」（62.8%）、「話し相手」（56.8%）、「体を動かした作業」（54.5%）を希望していることが分かった。次に関心が高かった「まちづくり・イベント等の手伝い」は20代（52.1%）、30代（48.9%）、40代（63.6%）に人気があり、「接客」は20代女性（56.8%）と30代女性（48.5%）に、「調理支援」は50代女性（49.1%）に、「保育支援」は20代女性（36.4%）と30代女性（36.4%）に、「介護支援」は40代女性（34.8%）に関心が高かった。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-54）

男女別では、「調理支援」や「保育支援」で女性の方が関心が高いのは当然であるが、「話し相手」や「接客」、「介護支援」でも女性の方が比率が高くなっている。逆に男性の方が比率が高いのは「体を動かした作業」と「パソコン指導」などであった。

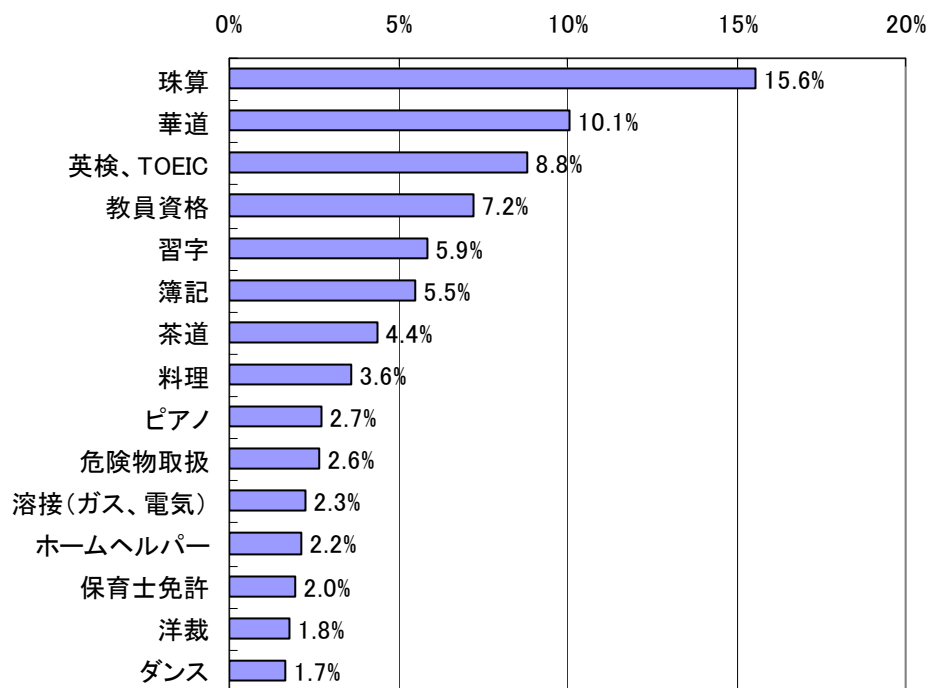
図表3-57 提供できるボランティア内容



⑭ (参考) 回答者の技術や資格について

回答者に持っている技術や資格について尋ねたところ、自動車免許を除くと、以下のような回答順で多くなっている。

図表 3-58 回答者の所有する技術や資格 上位 15 位



n=1,021

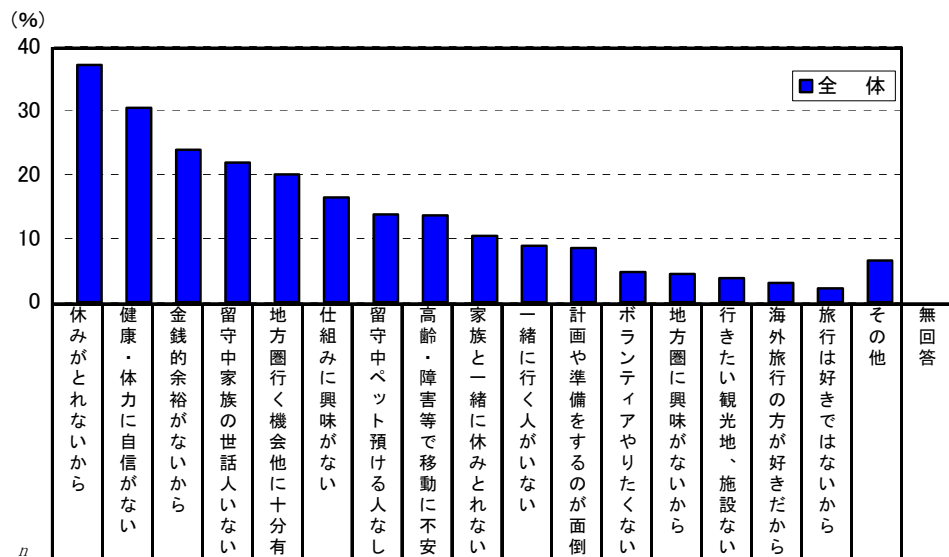
⑮「ボランティアホリデー」を体験したくない理由（問25）

「ボランティアホリデー」の体験意向を尋ねた質問（問13）に対して、「どちらともいえない」、「あまり体験したくない」、「まったく体験したくない」と回答した人に、「ボランティアホリデー」を体験したくない理由を尋ねたところ、「休みがとれないから」（37.1%）が最も高く、次いで「健康・体力に自信がない」（30.4%）、「金銭的余裕がない」（23.8%）、「留守中家族の世話をする人がいない」（21.8%）、「地方圏に行く機会が他に十分ある」（20.0%）という順になっている。

年代別にみると、「休みがとれないから」を選んだ比率が一番高いのは30代（66.7%）、40代（57.1%）、20代（54.0%）の順であり、50代（45.2%）になると半数を切り、60代（19.2%）、70代（6.0%）になると比率は急落する。その代わりに「健康・体力に自信がない」が60代（44.2%）、70代（58.0%）になると急増する。また、「金銭的に余裕がないから」という回答も比較的年齢層が若いところで比率が高い。

また、「仕組みに興味がない」と答えた比率が高いのは40代（30.2%）30代（29.3%）であり、「高齢・障害等で移動に不安」は70代で48%となっている。

図表3-59 「ボランティアホリデー」を体験したくない理由



		全体	634	37.1	30.4	23.8	21.8	20.0	16.4	13.7	13.6	10.4	8.8	8.5	4.7	4.4	3.8	3.0	2.2	6.5	4.1
性・年代別	男性	20代	48	68.8	4.2	31.3	4.2	8.3	31.3	6.3	2.1	-	10.4	18.8	14.6	6.3	4.2	2.1	10.4	8.3	4.2
		30代	44	81.8	6.8	40.9	11.4	11.4	25.0	9.1	-	20.5	6.8	4.5	11.4	6.8	6.8	2.3	4.5	4.5	2.3
		40代	35	68.6	2.9	37.1	11.4	14.3	42.9	8.6	2.9	11.4	2.9	-	8.6	2.9	8.6	-	-	5.7	2.9
		50代	47	57.4	12.8	25.5	8.5	23.4	14.9	19.1	2.1	10.6	12.8	6.4	6.4	6.4	-	2.1	2.1	5.6	10.6
		60代	90	22.2	41.1	25.6	10.0	33.3	11.1	12.2	18.9	13.3	41.1	14.4	2.2	4.4	7.8	5.6	2.2	4.9	4.4
		70代	61	8.2	65.6	9.8	4.9	18.0	-	11.5	60.7	1.6	65.6	3.3	3.3	1.6	1.6	-	-	15.4	3.3
		70代	39	2.6	46.2	7.7	25.6	28.2	7.7	20.5	28.2	7.7	46.2	2.6	2.6	5.1	2.6	5.1	-	-	-
	女性	20代	52	40.4	19.2	32.7	17.3	15.4	17.3	9.6	1.9	13.5	13.5	13.5	5.8	11.5	1.9	1.9	3.8	15.4	3.8
		30代	31	45.2	19.4	35.5	48.4	9.7	35.5	9.7	-	9.7	6.5	12.9	6.5	-	-	-	-	9.7	-
		40代	28*	42.9	21.4	28.6	46.4	14.3	14.3	28.6	-	7.1	3.6	14.3	-	-	7.1	-	-	3.6	14.3
		50代	77	37.7	32.5	22.1	48.1	23.4	15.6	18.2	1.3	22.1	32.5	6.5	1.3	5.2	2.6	3.9	2.6	6.5	2.6
		60代	82	15.9	47.6	9.8	32.9	20.7	8.5	14.6	19.5	3.7	47.6	4.9	1.2	1.2	2.4	6.1	-	8.5	3.7
		70代	39	2.6	46.2	7.7	25.6	28.2	7.7	20.5	28.2	7.7	46.2	2.6	2.6	5.1	2.6	5.1	-	-	-

⑩「ボランティアホリデー」に何を期待、要望するか（問26）

「ボランティアホリデー」に何を期待、要望するかを質問したところ、以下のような回答が得られた。

【農作業】

最も多い回答は「ボランティアホリデー」のメニューに関する意見である。

たとえば、作業内容では「農作業を手伝う」、「酪農体験・牛の世話をしチーズ作りをしてみたい」、「馬や牛の世話などをやってみたい」、「田植えなどの農作業」などのように農作業をしたいという要望が多い。

【地域特有のメニュー】

具体的な作業内容でないメニューに関する意見としては、「その地域の良さが、旅行よりも深く知る事ができるもの」、「その土地を感じられるボランティア内容を期待」、「その地域でしか行うことのできないボランティアをしてみたい」のように、その地域特有のメニューを望む声が多い。

【日ごろ経験できないこと】

さらに「都会では味わえない地方ならではの充実した一日が過ごせれば良いと思います」、「参加するならばそこにしかないもの、そこでしか体験できないものをしてみたい」、「普段の都市圏の生活では経験ができないこと」のように、日頃経験できないことであればよいという意見も数多くみられる。

【特技や技能を生かしたボランティア活動】

また、それほど多くはないが、「生の音楽演奏と音楽のレクチャーを通じて地域の住民と交流するようなもの」、「自分の職を生かしたパソコン、IT 関係で役立てればと思います」、「パソコンの指導」、「自分の持っている技術を活用しながら、ボランティア活動するのが良い」のように、自分の特技や技能を生かしたボランティア活動を望む声もある。

【地元の人との交流】

ボランティアメニュー以外の意見としては、「触れ合いを大切にして楽しくやっていきたい」、「人との触れ合い」、「その土地の人々との交流」、「地域の人達と触れ合いたい」、「滞在した地域の人といろんなことを一緒にできれば良いと思う」のように地元の人たちとの交流を希望する意見がかなり多い。

【自然、観光名所】

滞在先に対する希望としては「子供がいるので、自然に触れられる地域」、「自然を満喫したい」、「自然の中で活動できること」、「きれいな自然と空気」、「動物も多く、特に牛や馬がいる大きな大自然」のように自然を期待する声が多いが、「観光場所や郷土料理の多い所」、「観光地としてあまり知られていないけれど、名所等が実はたくさんあるという所」のような意見もある。

【宿泊施設と食事】

宿泊や食事については、「宿泊設備が整っている」、「トイレがきちんとしている所」、「宿舎提供、食事の提供もあれば良い」、「贅沢は言えないが、宿泊する場所と食事抜きではボランティアはできない」などの声がある。

【費用負担】

費用負担については、「なるべくお金がかからないもの」、「料金が無料になる」、「低料金」、「自由な時間もあって、金銭的に負担が少ないこと」、「旅費や滞在費などはできるだけ0に近い方がいい」、「格安で公共の宿、または旅館を提供してもらうこと」、「せめて滞在費などは自己負担しない仕組みが欲しい」、「食事面や住居において十分な補助をして欲しい」などの意見があり、ボランティアホリデーに参加するための交通費や滞在費に対する補助を求める声はかなりある。

【ボランティアホリデー事業について】

また、事業自体については、以下のような意見があった。

- ・「誰でも参加しやすい、企画・プランを作って欲しい」
- ・「営業目的ではなく、本当に困った方への助けであるものであって欲しい」
- ・「いまいちどういものかつかめないが、地方の方々が本当に喜んでいただけるもの」
- ・「漠然としていてわからないが、主催する側の主旨や責任が、はっきりしていること」
- ・「ボランティア活動と観光旅行は切り離して考えるべきと思う」
- ・「ボランティアという言葉を前面に出すのが、あまり好ましく思っておりませんが、あえて言うなら田舎の人々と自然に同化できるようにと考える」
- ・「ボランティアの意義がよくわからない。例えば震災で困っておられる人がいて、人手がいるというのであれば、行ってお役に立てればと思うが、田舎に行って例えば農業や、漁業など手伝うというのは、私の中ではボランティアとは思えないので（旅行気分です人を手伝うということが受け入れられない）」
- ・「ボランティアは地方圏に行かなくともできるし、本質的に観光旅行を兼ねるというものはどうかと思う。つまりボランティアは遊びではない」
- ・「ボランティアと個人的な旅行を同時に経験できるのは便利だが、責任を持ってボランティアに参加できる環境があることが望ましい。遊び半分です仕事をしているように思われるのは、かえって迷惑になると思うので、それなりの責任のあるボランティア内容を経験できればと思う」
- ・「もしその地域に本当に住みたいと思ったとき、また、自分が必要とされたときに、UターンではなくIターンのようにして住むことや、就職はできるのかどうかということをご期待します。」

(4) 地方圏（田舎）への定住について

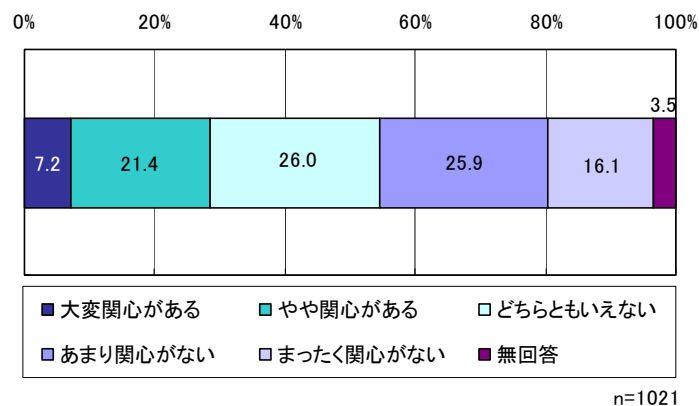
① 将来の地方圏への定住についての関心度（問27）

将来、地方圏に定住することについての関心を尋ねたところ、「大変関心がある」と答えた人は7.2%であり、「やや関心がある」が21.4%、「どちらともいえない」が26.0%、「あまり関心がない」が25.9%、「まったく関心がない」が16.1%であった。「大変関心がある」と「やや関心がある」の合計（関心がある人）は28.6%となった。

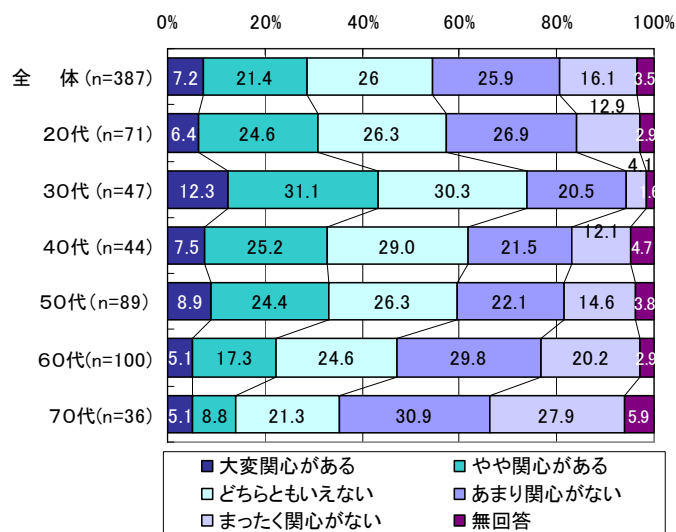
年代別にみると、30代では、関心がある人の割合（43.4%）が、関心がない人（「あまり関心がない」と「まったく関心がない」の合計）の割合（24.6%）より大きくなっている。逆に60代、70代になると関心がないと答える人の割合が増加する（60代で50.0%、70代で58.8%）。男女別年代別にみると、関心のある人の割合が多いのは、30代男性（46.5%）、50代男性（45.7%）、30代女性（40.7%）、20代女性（35.4%）、40代男性（33.9%）である。逆に関心のない人の割合が多いのは、70代男性（60.1%）、70代女性（57.2%）、60代女性（54.9%）である。

また、ボランティア経験のある人の方が、ない人より地方圏への定住に関して関心が高い（ボランティア経験がある人は31.7%であり、ない人は26.4%である）。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-55）

図表3-60 将来の地方圏への定住についての関心度



図表3-61 年代別 将来の地方圏への定住についての関心度

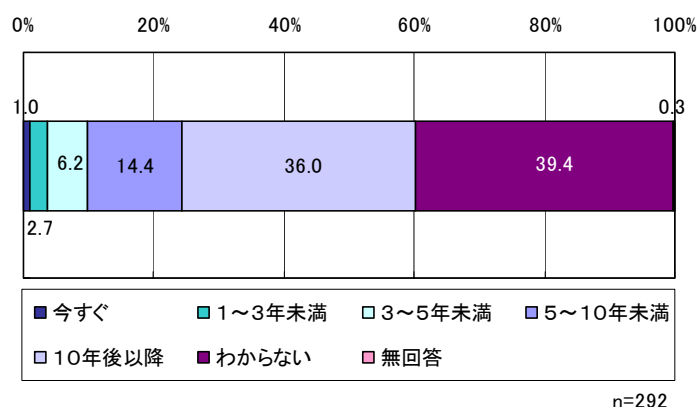


②地方圏への定住時期（問28）

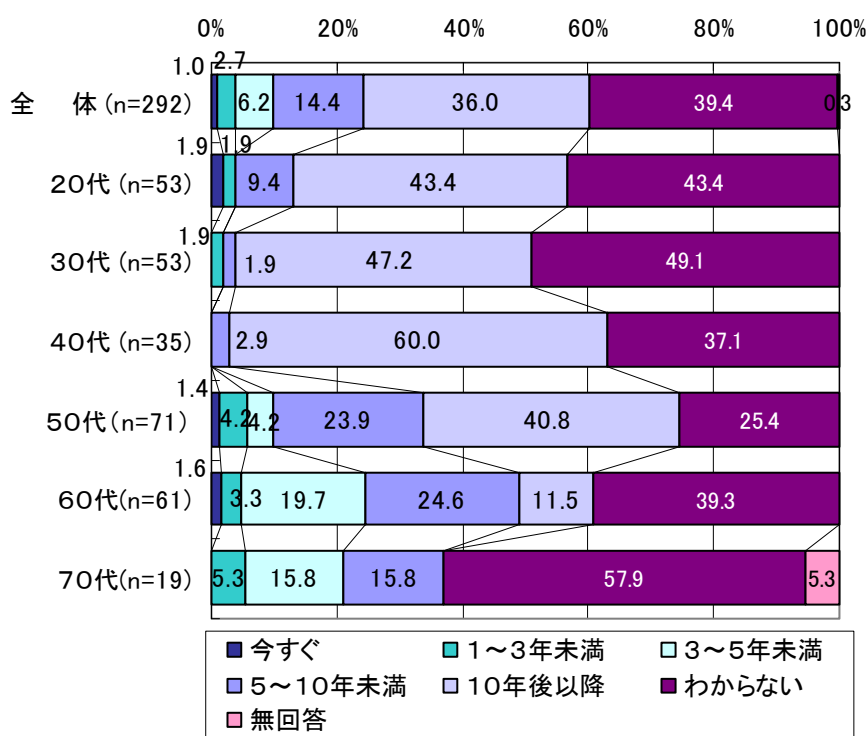
将来、地方圏に定住することについて関心をもっていると答えた人（問27で「大変関心がある」あるいは「やや関心がある」と答えた人）に、定住時期に質問したところ、「分からない」（39.4%）が最も多く、次が「10年後以降」（36.0%）であり、以下「5～10年未満」（14.4%）、「3～5年未満」（6.2%）、「1～3年未満」（2.7%）、「今すぐ」（1.0%）の順となっている。

年代別にみると、20～40代は「10年後以降」、「分からない」が大半を占めており、遠い将来に漠然と検討している程度であることがうかがえる。逆に50歳以上になると定住時期を10年未満と考えている層が多くなる。たとえば、10年後までに移住を考えている人の割合は60代男性では53.5%、50代男性では40.5%とかなり高くなっている。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-56）

図表3-62 地方圏への定住時期



図表3-63 年代別 地方圏への定住時期

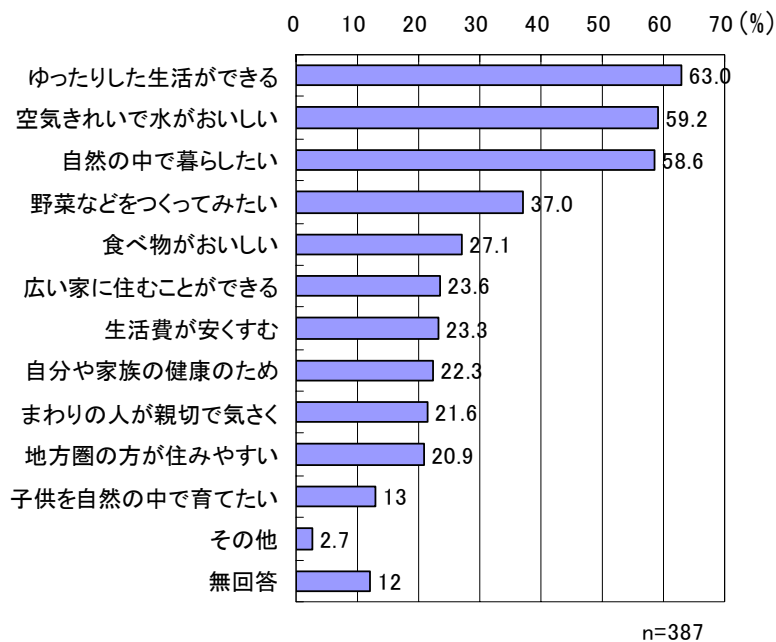


③ 地方圏への定住を考える理由（問29）

将来、地方圏に定住することについて関心を持っていると答えた人に、定住を考える理由を尋ねたところ、「ゆったりした生活ができる」(63.0%)、「空気がきれいで水がおいしい」(59.2%)、「自然の中で暮らしたい」(58.6%)の上位3つが50%以上を占めている。都市部では生活上困難な、時間的なゆとりや自然の食住環境等を地方圏（田舎）で期待していることがうかがえる。

年代別にみると、20代では「空気がきれいで水がおいしい」(69.8%)が最も多いが、「広い家に住むことができる」(37.7%)、「子供を自然の中で育てたい」(35.8%)、「地方圏の方が住みやすい」(32.1%)という回答が多いのが特徴である。40代は「ゆったりした生活ができる」(82.9%)と「自然の中で暮らしたい」(68.6%)という回答が多くなっている。（参考資料「大都市住民に向けたニーズ調査アンケート集計表」参照・P資料-56）

図表3-64 地方圏への定住を考える理由



④地方圏への定住に期待・要望すること（問30）

【自然環境】

地方圏への定住に期待・要望することで、もっとも多かったのは自然環境に関するものであった。たとえば「周りに自然が残っていて、静かな環境である場所に住みたいと思う」、「空気がきれいな所」、「大自然に囲まれ、星のきれいなところ」、「自然の中で四季を感じて生活したい」、「青い海、緑の山々など自然環境の中での暮らし」、「緑が豊かで空気がきれいなこと」、「窓から海（山）が見えること」、「自然と共に、春夏秋冬を感じて、のんびりと過ごしたい」というような期待や要望が多い。

【生活環境：スーパー、コンビニ、学校、病院、交番】

こうした自然環境とともに、回答が多かったのは生活環境に対する期待や要望である。たとえば「自然がいっぱいで空気がおいしい。でもコンビニや遊ぶ所がある」、「田舎でも最低限の施設は必要（病院、コンビニ等）」、「生活しやすい（スーパー、学校、病院 etc が近くにある）」、「交番がある」、「何にもない場所ではなくて、少しいけば一通りの買物ができる場所で、医療の面も整った場所であって欲しい」、「生活に不便がないこと（交通、買い物など）」、「買物ができる所が近くにあって欲しい」、「車で 30 分位の所に、何でもそろろウジャスコのような総合スーパーが1つくらいはあって欲しい」、「ファーストフードやコンビニなども欲しい」、「図書館などの公共施設の充実」などの回答があった。

こうした意見の中では特に医療機関に関する要望が目につく。たとえば、「地方でも都会のように病院などに不自由しないという点」、「小児科もある病院が近くにある事」、「医療設備が充実」、「医療、福祉（施設など）が充実した地域に住みたい」、「すぐ診てもらえる病院がある所」、「病院などもできれば近い方が良くと思う」、「医療・福祉等、公共的な施設が整っている事」などの意見である。

【交通の便】

同時に交通の便を期待・要望する声もかなりある。たとえば、「田舎でも比較的交通の便が良いこと（公共の交通機関、電車等）」、「田舎ではあるが、できるだけ交通の便が良い事」、「バス、電車で買物などに出かけられること」、「交通に便利なところ。乗り換えが多いと困る。都会と行ったり来たりできること」、「地方は自然が豊かで健康にも良いと思いますが、高齢化と共に交通の便、病院や公共施設の便などを考えますとあまり不便な所は不安です」、「車を運転しないので、バス便が適度にあること」、「交通が便利である。特に都会へのアクセス」などの回答があった。

【のんびり暮らしたい、趣味を生かした暮らし】

ライフスタイルに関連する期待も多い。最も多いのは、「のんびり暮らしたい」、「老後をゆっくりと生きたい」、「交通が便利で、のんびりと生活ができる処が良いと思う」、「時間に追われない日々」、「一日がゆっくり、マイペースで住みたい」、「都会の事を忘れて、ゆったり生活」といったゆとりのある生活に対する期待であるが、中には、「趣味として歌い続けたコーラス、童謡、懐メロなどのグループを作り上げたい」、「洋裁、手芸、クラフトなど一緒に楽しみたい」といった声もある。

【野菜づくり】

また、自分で野菜を作りたいという声も多い。たとえば、「空気のきれいな所でゆったりと野菜など作ってみたい」、「野菜を作りたい」、「自給自足がやりたい」、「定住するには山間部は避けたい。平坦地というか平野で空気のきれいで少し野菜の作れる田畑 100 坪程のできる所」、「自然採取や養殖畑作飼育などマイペースで思う存分にできれば良いと思っている」、「畑作りなど、自然の中でのびのびと暮らしたい」、「年令、体力に合うような農作業がしてみたい」、「田舎は空気もきれいだし、生活費も安くつくので、ゆったりと畑で野菜をいろいろ作ったりできれば良いと思います」などの回答があった。

【地元の人との交流、円滑な関係】

地元の人との関係や交流に関しては「素朴な人達との交流」、「のんびり家庭菜園でもして、農家の人々と仲良く交流したい」、「地域の方とコミュニケーション=情報交換が気軽にできること」のように、交流を望む声がある一方、「田舎に住むには人間関係が大変だと思います」、「地域の人達との交流があればいいと思うが、煩わしい付き合いは?」、「周りの人が親切で気さくである」、「定住先の人達と仲良く溶け込んで郷に入れば郷に従って一生楽しく暮せる所」、「わずらわしくない程度に隣人とのコミュニケーションがとれるところ」、「人間関係が円滑なこと」、「民家が多少あって隣近所と仲良くしたい」、「隣人との心の通じた生活」のように、地元の人との関係を心配する声や円滑な関係を期待する声もある。

3. ニーズ調査のまとめ

(1) 体験希望者層について

■大半の人達はボランティア活動に興味を持っている

ボランティア活動に興味がないと答えた人の割合は1割に満たない。比較的無関心層が多い20代男性、30代男性でも、その割合は2割程度であり、大半の人が条件（時間的な余裕、ボランティア活動の内容、きっかけ）さえ整えばボランティア活動に参加したいと考えていることが分かった。

■ボランティアホリデーを体験したい人は、4割弱

ボランティアホリデーを体験してみたいと答えた人は約4割であるが、30代女性、20代女性、40代女性では半数前後が体験してみたいと答えている。また、体験してみたいと答えた割合が低い高齢者層でも、3割以上が体験してみたいと答えている。

■20代から50代の男性は「休みがとれない」が多い

ボランティアホリデーを体験したくない理由として「休みがとれない」を挙げる人が半数を超えるのは20代から50代の男性であり、他の層は半数以下である。

■20代から40代は金銭的余裕がない

「金銭的余裕がない」と答える人の割合が多いのは20代から40代である。しかし、50代以上になると、「金銭的に余裕がない」と答える人は3割以下となり、ボランティアホリデー参加の大きな阻害要因となっていないことがわかった。

■健康な60歳代は有望

60歳以上は、時間的にも金銭的にも余裕があるが、「健康・体力に自信がない」と答える人の割合が多くなる。しかし、60歳代であれば「健康・体力に自信がない」と答える人の割合は4割から5割であるので、時間的にも金銭的にも余裕があり、健康・体力的にも問題がない人がかなり多いこの層はボランティアホリデーの対象として極めて有望である。

ただし、高齢者層は、地方圏に定住することについて関心が低くなるので、ボランティアホリデーを契機に地方圏への定住を促すのではなく、定期的なボランティアホリデーへの参加を通じて、交流人口の拡大につなげていくという方針で考えることが望ましいだろう。

■定住に関心がある30代を参加させるには工夫が必要

一方、地方圏に定住することについて関心が高いのは30代であるので、この層に対してボランティアホリデーへの参加を促し、地方圏への定住を促すことが望まれる。しかし、この年齢層は金銭的にも時間的にも余裕がない。そこで、企業のCSRの一環としてボランティアホリデーへの参加を位置づけるとともに、ボランティアホリデー参加のための交通費や宿泊費の補助制度を検討し、ボランティアホリデーへの参加機会の増大を図るため工夫をする必要がある。

(2) 「ボランティアホリデー」の期間、費用等について

■期間は「1週間～2週間未満」が望ましい

「ボランティアホリデー」を体験する期間として、「1週間～2週間未満」という回答が多く、平均は9.3日間であった。以上のことから、「ボランティアホリデー」の設定期間として、「1週間～2週間未満」が望ましい。

■往復の交通費は「3万円未満」が望ましい

「ボランティアホリデー」参加意向者の負担可能な交通費は「3万円未満」が圧倒的に多かった。平均は2.5万円であった。したがって、交通費は「3万円未満」であることが望ましい。交通機関、旅行会社とタイアップして、安価なチケットを設定することができれば、より多くの参加者を集めることができると思われる。

■できるだけ安価な宿泊施設の提供

負担できる一日あたりの費用については、1万円未満を希望している人の割合が8割弱、比較的金銭的に余裕があるとみられている高齢者層でも約三分の二を占めており、平均6.6千円であった。また、希望する宿泊施設も、「公的な宿泊施設」、「国民宿舎、ユースホステル」、「民家」などを希望する人が多い。こうしたことを考えると、できるだけ安価な宿泊施設を提供する必要がある。ただし、自由回答にもあるとおり、風呂、トイレは必須で、清潔でプライバシーが保たれる空間が望まれる。

(3) ボランティアメニューについて

■農作業の希望が一番人気

滞在地で行いたいボランティア活動については、半数以上の人々が「農作業手伝い」を希望している。ボランティアホリデーへの期待、要望に関する自由回答でも、やはり農作業を希望する人が最も多かったが、その内容は「農作業を手伝う」、「酪農体験・牛の世話をしチーズ作りをしてみたい」、「馬や牛の世話などをやってみたい」、「田植えなどの農作業」などのように多様である。

■その地域でしかできないこと・都会では経験できないこと

また、自由回答では、「その地域の良さが、旅行よりも深く知る事ができるもの」「その土地を感じられるボランティア内容を期待」、「その地域でしか行うことのできないボランティアをしてみたい」のように、その地域特有のメニューを望む声が多く、さらに「都会では味わえない地方ならではの充実した一日が過ごせれば良い」と思います、「参加するならばそこにしかないもの、そこでしか体験できないものをしてみたい」、「普段の都市圏の生活では経験ができないこと」のように、日頃経験できないことであればよいという意見も数多くみられた。

■特技や技能を生かしたボランティア活動

「生の音楽演奏と音楽のレクチャーを通じて地域の住民と交流するようなもの」、「パソコンの指導」、「自分の持っている技術を活用しながら、ボランティア活動するのが良い」のように、自分の特技や技能を生かしたボランティア活動を望む人も多い。

4. 考察

総務省統計局が実施している平成13年社会生活基本調査によれば、ボランティア活動を行った人の割合は増加している。具体的には、平成12年10月～13年10月に何らかのボランティア活動を行った人は3263万人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は28.6%であり、この5年前に行われた調査と比べて行動者率は3.6ポイント上昇している。また、男女別年代別にみると、女性の30代後半（行動者率は42.6%）と40代前半（43.3%）が最も高い。

本アンケート調査でも、ボランティアホリデーを体験したいと答えた割合が最も多かったのは、30代女性であった。また、30代は地方圏に定住することについて最も関心の高い層である。こうしたことから、この層に対してボランティアホリデーへの参加を促し、地方圏への定住を促すことが望まれるが、この年齢層は時間的にも金銭的にも比較的余裕のない年代層である。したがって、企業がCSRの一環としてボランティアホリデーへの参加を位置づけることによって時間的な余裕を与えるなど、なんらかの制度によってボランティアホリデー参加のための交通費や宿泊費の補助をすることによって金銭的な問題を解決していくことが望まれる。

一方、男性50代に着目すると、野村総合研究所の「NRI生活者1万人アンケート」（2003年）によれば、50代の世代は、貯蓄志向が弱まり、お金を積極的に旅行にまわそうという意識が高い。本アンケートでは、50代の男性はボランティアホリデーへの体験意向が高く、対象として有望と思われる。しかし、20代から50代の男性はボランティアホリデーを体験したくない理由として「休みがとれない」という回答が多く、実際は体験をしたいけれど、時間的な余裕がないために体験できないという状況だと推察される。こうしたことから50代の男性は、数年後に退職する可能性が高いことを考えると、その後の参加が最も期待できる層であると考えられる。

70代については、健康・体力に自信のない人が多いことから、長期のボランティア活動は難しいと思われ、積極的にボランティアホリデーの対象とする必要はないだろう。

また、「ボランティアホリデー」参加意向者の負担可能な交通費は「3万円未満」が圧倒的に多く、平均は2.5万円であった。したがって、交通費は「3万円未満」であることが望ましい。参加希望者を募る場合には、交通機関、旅行会社とタイアップして、安価なチケットを設定することが望まれる。

ボランティアメニューについては、農作業を望む声が多いものの、特技や技能を生かしたボランティア活動を望む声も多い。実際に回答者の技術や資格を見ても、様々な種類の技術や資格を持っており、それらの技術を不足としている地域があれば、ボランティアに助けてもらうことができるだろう。ボランティアメニューも、種類を多く設定すると、より受け入れる自治体にとってもメリットが得られるだろう。

（アンケート結果から想定されるボランティアメニュー）

- 20・30代男性「都会では体験のできないような体を動かした作業等」
→（農作業、酪農手伝いなど）
- 20・30代女性「都会では体験のできないような接客等」
→（祭イベント等の手伝いなど）
- 50歳以上男性「地域に貢献できるような軽作業等」
→（軽い農作業、漁業手伝いなど）
- 50歳以上女性「地元の人々と交流できる軽い作業等」
→（役場や公共施設の手伝い、特産品の販売など）